

平成30年度

海外における MICE 専門人材育成プログラム事例調査

報告書

平成31年3月

観光庁

目次

1. 事業の目的	1
2. 海外 MICE 関連団体等における MICE 教育プログラム及び資格認証制度	2
1) 政府機関や業界団体による教育プログラムの事例	2
(1) タイの MICE プログラム	5
(2) シンガポールの MICE プログラム	11
(3) 台湾の MICE プログラム	15
(4) 韓国の MICE プログラム	18
2) 資格認証制度の事例と関連する教育プログラム	21
(1) MICE 関連団体が提供している主な資格認証制度と教育プログラム	21
(2) MICE 関連団体が提供している教育プログラム	25
3) 国内関連団体・事業者へのヒアリング結果	49
3. 海外の高等教育機関における MICE 関連カリキュラム	52
1) 国内の高等教育機関における MICE 関連カリキュラムの現状	52
(1) 横浜商科大学の事例	54
(2) 関西学院大学の事例	59
2) 海外の高等教育機関における MICE 関連カリキュラムの現状	63
(1) アメリカにおける高等教育機関の MICE 関連カリキュラム	63
(2) ヨーロッパにおける高等教育機関の MICE 関連カリキュラム	79
(3) その他の国・地域における高等教育機関の MICE 関連カリキュラム	89
4. 我が国に求められる MICE 専門人材育成プログラムに関する検討	94
1) 行政機関や業界団体による教育プログラム	94
2) 高等教育機関における教育カリキュラム	98

1. 事業の目的

国際的な MICE の誘致・開催はビジネスパーソンや研究者を国内外から呼び込み、開催地域に新たなイノベーション機会やビジネスチャンスをもたらし地域の産業振興や学術進行を強化するツールとして注目を集めている。さらに開催地域に対する大きな経済波及効果（MICE 主催者や参加者等の消費化活動から発生する経済効果）を生み出すことも知られている。

国際的な MICE の持つ魅力的な開催効果を求めて、近年 MICE の誘致競争は国際的に激化しており、特にアジア諸国をはじめ多くの国・地域が MICE 誘致に力を注いでいる。我が国においても平成 25 年 6 月に閣議決定された「日本再興戦略」の中で「2030 年にはアジア No1 の国際会議開催国として不動の地位を築く」という目標や、「国際競争力強化委員会 提言」において、「2030 年 MICE 関連訪日外国人消費相当額 8,000 億円」の目標が掲げられている。

これらの目標達成のためには MICE 業界を支え発展させていく人材を定常的に育て排出していく仕組みが必要とされているが、現在我が国における MICE 業界の人材育成プログラムは統一的でなく、必ずしも体系化されていないため、継続的に専門的知識を有する MICE 人材を育成しづらい環境にある。

このような状況を鑑み、日本における MICE 人材育成分野の底上げのため、「海外における MICE 関連団体・企業における MICE 教育プログラム及び資格認証制度」及び「海外の高等教育機関における MICE 教育カリキュラム」に関する調査を行い、今後の日本の MICE 業界の持続的な発展を担う MICE 人材育成に必要な要素を整理する必要がある。

本調査では、これらの背景・問題意識から、海外の行政機関や業界団体が実施している MICE 人材育成のための教育プログラムや資格認証制度を把握することで、どのような視点で教育プログラムが実施され、どのような知識・知見を MICE 業界の人材に身につけていく必要があるのか等を把握することを目的に各種情報収集を行う。

同様に海外の高等教育機関が学生向けに実施している MICE 関連カリキュラムを把握し、我が国で提供されているプログラムと比較等を行うことで、学生教育に求められるポイントを把握し、今後の我が国の人材育成プログラムの参考としていくことを目的に調査を実施した。

2. 海外 MICE 関連団体等における MICE 教育プログラム及び資格認証制度

1) 政府機関や業界団体による教育プログラムの事例

本調査ではアジアの国・地域を中心に、タイ、シンガポール、台湾、韓国で実施されている MICE 人材育成プログラムを整理した。

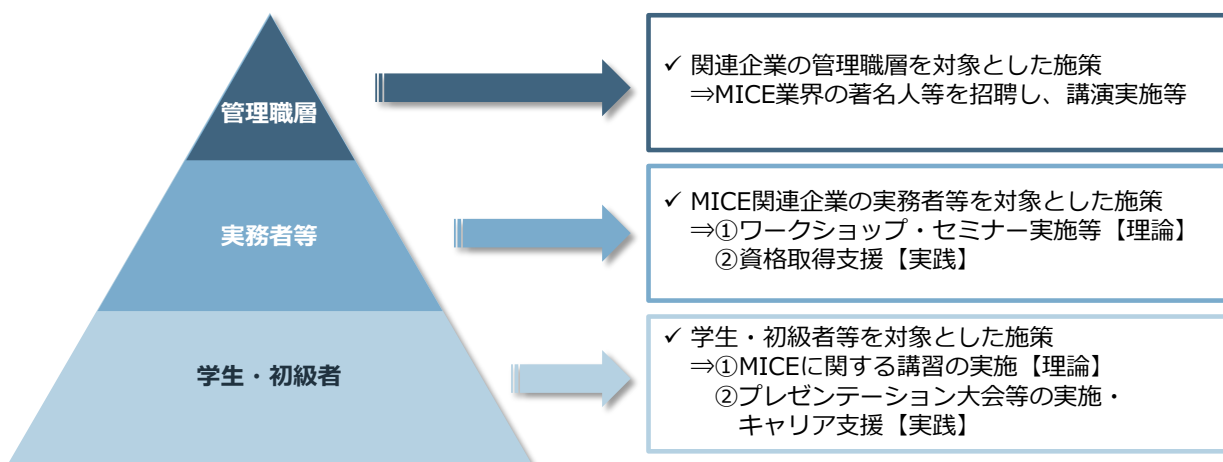
● MICE 人材育成プログラムの概要

- アジアでは、政府や自治体が主導して MICE の人材育成プログラムを実施している傾向がある。アジアにおける MICE 産業では、提供サービスの質向上、業界標準の底上げ、専門人材の需要が増加しており、受講者のレベルに合わせた教育・キャリア支援が必要となっている。MICE 産業は、ホテル、主催者、サプライヤー等多様なプレイヤーが存在しており、市場環境や実務的な知識を体系的に整理するニーズが高まり、政府機関等が核となって人材育成プログラムの組成がなされるようになった。
- 例えば、タイでは人材育成プログラムを政府外郭団体である Thailand Convention and Exhibition Bureau (TCEB) が主体となって実施している。韓国では、ソウル市の観光財団である Seoul Tourism Organization (STO) が主体となり、人材育成プログラムを実施。シンガポールと台湾では、それぞれ MICE 産業の業界団体が人材育成プログラムの主体となっているが、政府・自治体政府が支援を行う形で取組が行われている。
- 人材育成プログラムの教材や講習内容は、主に業界団体との連携を通じて作成される場合が多い。また、人材育成プログラムの講師は、海外の MICE 業界団体や国内の業界団体から派遣される場合が多い。タイ、シンガポール、台湾、韓国では、MPI や IAEE 等の国際的な MICE 業界団体と覚書を締結し、同業界団体が提供しているプログラムを自国で提供するなどの取組を行っている。

● MICE 人材育成プログラムの分類

- 各国では、受講者のスキルや経験、レベルに応じて人材育成プログラムを策定している。対象となる受講者は、①管理職層②実務者等③学生・初級者等の 3 段階として整理する。
- 受講者別の各分類の中でもさらに、実践・理論の支援が存在する傾向がある。

図表 MICE 人材育成プログラムの分類



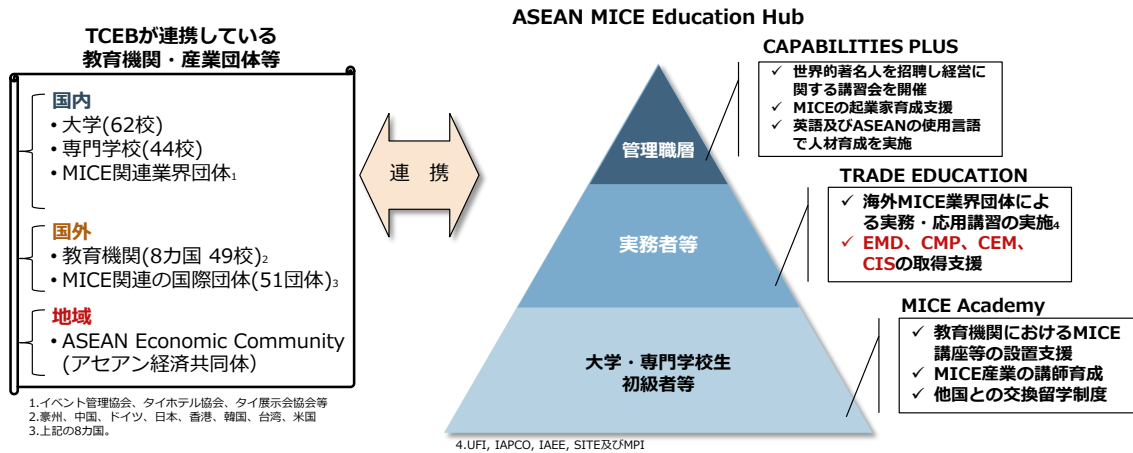
図表 各国の MICE 人材育成プログラムの概要

対象国	注力催事	概要	政府機関等の役割
タイ	C、I	<ul style="list-style-type: none"> ✓ ASEAN MICE Education Hub 構想（ASEAN における MICE 人材育成拠点の形成）を掲げ、<u>TCEB が主体となつて人材育成を実施。</u> ✓ 管理職、実務者、学生等レベルに応じた講習等を展開。 ✓ 国際団体と連携し、MICE の資格取得支援を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 教材の作成 ✓ 教育機関との連携による授業等の実施 ✓ 国内外の業界団体との連携による講習等の実施 ✓ 学生向けイベントの主催
シンガポール	Ex	<ul style="list-style-type: none"> ✓ シンガポールの MICE 産業振興に向け、展示会主催者・サプライヤーで構成された<u>業界団体（SACEOS）が主体となつて人材育成を実施。</u> ✓ 管理職、実務者、学生等各レベルに応じた講習等を展開。 ✓ 国際団体と連携し、MICE の資格取得支援を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 人材育成プログラムの主体である国内業界団体の支援 ✓ 学生向けイベントの主催
台湾	C、Ex	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 台湾の貿易振興に向け、台湾政府経済部の支援の元、<u>国際貿易研究所が主体となつて人材育成を実施。</u> ✓ 実務者、学生等レベルに応じた講習等を展開。 ✓ 国際団体と連携し MICE の資格取得支援を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 人材育成プログラムの主体である国内業界団体の支援 ✓ 学生向けイベントの主催
韓国 ソウル	C	<ul style="list-style-type: none"> ✓ ソウル市の MICE 産業振興（主に国際会議誘致）に向け、<u>ソウル観光公社が人材育成を実施。</u> ✓ 実務者、学生等レベルに応じた講習等を展開。 ✓ 国際団体と連携し MICE の資格取得支援を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 教育機関との連携による授業等の実施 ✓ 国内外の業界団体との連携による講習等の実施 ✓ 学生向けイベントの主催

(1) タイの MICE プログラム

- タイでは、Thailand Convention and Exhibition Bureau（以下、TCEB）東南アジアにおける MICE 分野の牽引役になることをビジョンとして掲げている。地域内の MICE の知見獲得・MICE の標準作成・持続可能なイベント実施等を明記した中期計画（Thailand MICE Capabilities Master Plan 2019-2023）を発表している。
- 中期計画では、タイ国内に ASEAN の MICE 教育拠点（ASEAN MICE Education Hub）を形成することが明記されている。MICE 教育拠点の形成にむけ、以下の主な施策を実施。
 - ①セミナーの実施
 - ②MICE 分野の資格取得支援（及び資格試験実施の代行）
 - ③国内外の MICE 関係者との交流（及びキャリア・採用支援）
 - ④専門書・教科書等の発行
- 実施内容：上記の施策は、MICE 分野における初心者向け、専門家向け、経営・役員層向け等、参加者の知識・経験・役職レベルに応じた 3 段階の人材育成プログラムとなっている。以下に、TCEB が実施している人材育成プログラムを階層別に整理した。
 - MICE Academy：主に学生をターゲットにセミナー・授業を実施。
 - TRADE EDUCATION：主に業界関係者をターゲットに、業界団体と連携した実務講習を実施。さらに、資格取得支援を実施。
 - CAPABILITIES PLUS：MICE 分野における経営・役員層をターゲットに、講演や起業家育成支援を実施。英語及び ASEAN の使用言語で人材育成を実施するなど、発展的な内容のプログラムとなっている。

図表 TCEB が実施している人材育成プログラムのイメージ



出所) TCEB 公開情報をもとに作成

- TCEB が連携している主な機関 (国外)
 - ノーステキサス大学 (米国)
 - インチョン国立大学 (韓国)
 - Ufi
 - SITE
 - MPI
 - EMA (Event Management Association) 等

MICE Capability における 位置づけ	プログラム名	対象者	提供内容	提供方法
MICE Academy	MICE Curriculum (MICE101: Introduction to MICE Industry)	✓学生	✓企業ミーティング、研修・報奨旅行、国際会議、展示会、イベント、イベント運営、ベンチャー運営、サプライヤーのロジスティクス等、MICE 産業に共通する知識・知見	✓国内の大学（60校）・専門学校（47校）と MoU を締結し、MICE 関連の授業（講座）を提供 ✓業界団体と連携し、イベントや展示会に関する教育プログラムを開発
	International Textbooks	✓学生・催事の専門家等	✓Event Management Association と Thai Exhibition Association 監修の指導要綱	✓業界団体と連携し、イベントや展示会に関する参考書を制作し、販売
	“Coach the Coaches” Program	✓MICE 講習の講師（1,000名以上）	✓MICE 関連知識・教育	✓タイの MICE 産業で熟達した経歴を持つ専門家による講義を提供
	Future MICE Leader Program	✓初級の課程を終了した学生	✓中級レベルに匹敵する特別教育プログラム	✓講師による提供
	Vocational School Development Project	✓専門学校学生	✓トレーニング・プログラム（催事主催者模擬訓練等）	✓専門学校と連携し、講習の提供 ✓2015年にタイ政府教育大臣が TCEB を官民連携による専門学校教育開発委員会の MICE 部門に任命し、講習内容を共同で制作

MICE Capability における 位置づけ	プログラム名	対象者	提供内容	提供方法
	Academic Exchange Program	✓講師・学生・研究者	✓国際的な交換研修制度	✓TCEBはタイのMICE関連団体、タイの大学に対し、海外団体との交換協定締結を支援
TRADE EDUCATION	International MICE Certified and Certification Program	✓MICE事業に従事する者	✓国際的な資格の取得に向けた指導 ✓資格試験の実施	✓海外のMICE関連団体と連携し、受講生に講習を提供
	MICE National Certified Program	✓MICE事業に従事するもの	✓MICE関連セミナー（講習）の実施	✓業界団体と連携し、受講生に講習を提供
CAPABILITIES PLUS	MICE Master Class	✓MICE運営事業の経営役員層	✓経営マネジメントの講習 ✓イノベーション創出・経営における意思決定等が主な内容とされている	✓海外からのMICE専門家を招聘
	Inspired Learning Program	✓MICE関連企業の経営幹部等	✓交流型学習研修	✓MICE産業における課題ケースを参考書として活用し、ディスカッション形式で実施

MICE Capability における 位置づけ	プログラム名	対象者	提供内容	提供方法
	New Entrepreneur Training	✓MICE 関 連事業者	✓実務的アイデア・課 題解決スキル向上の 研修 ✓起業に関する講習	✓MICE Capabilities Development Department と政府 の産業促進部門が連 携し、事業者に提供
	Language for MICE	✓MICE 関 連事業者	✓コミュニケーション スキル向上に向けた 研修 ✓英語及び他の ASEAN 諸国の言語 で実施される MICE 研修	✓MICE Capabilities Development Department と ASEAN Economic Community が連携 し、研修を提供

TCEB による資格認証制度

- TCEB は、海外事業者等が発行している資格の認証機関のタイにおける事務局として役割を果たしている。TCEB が認証を行っている資格は以下のとおり

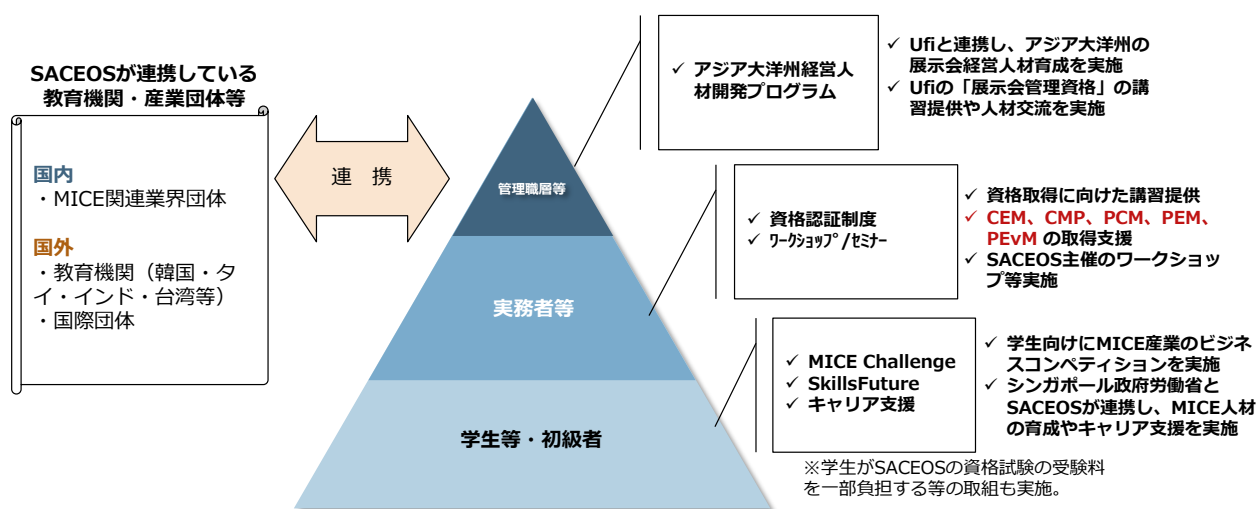
資格名	対象者	内容
Meetings: Certified Meeting Professional (CMP)	✓MICE 関連産業で3年以上の勤務経験を持つ者	✓CMP 指定の研修プログラム
Conventions: IAPCO Regional Seminar	✓PCO、コンベンション・ビューロー、施設運営者、宿泊事業者	✓IAPCO 指定のサービス研修、専門会議運営等プログラム (3日間)
Exhibitions: Certified in Exhibition Management (CEM)	✓展示会・イベント産業で3年以上の勤務経験を持つ者	✓CEM 指定の研修プログラム (9日間)
Exhibitions: Exhibition Management Degree (EMD)	✓展示会産業の専門家	✓150時間 (25日間) の専門プログラム
Incentives: Certified Incentive Specialist (CIS)	✓インセンティブ関連事業者	✓SITE 指定の基礎的研修プログラム (2日間)

- TCEB は以下の独自認証プログラム (MICE National Certified Program) を設立し、受講生に向けて講習を実施している。
 - ◇ Convention Professional Course (CPC)
 - ◇ Exhibition Management Course (EMC)
 - ◇ Event Professional Management Course (EPMC)
 - ◇ Incentive Professional Course (IPC)
 - ◇ Meeting Professional Course (MPC)
 - ◇ Venue Management Course (VMC)
 - ◇ その他

(2) シンガポールの MICE プログラム

- シンガポールでは、シンガポール政府とシンガポールの MICE 業界団体である Singapore Association of Convention and Exhibition Organizers and Suppliers (以下、SACEOS) が連携し、人材育成プログラムを実施している。SACEOS は 1990 年から展示会及び国際会議の専門人材を育成する目的で CEM、CMP の資格取得に向けた人材育成プログラムを実施している。現在は、より多岐に渡る資格取得を支援している。
- シンガポール政府（労働省；Ministry of Manpower）が主に学生及び 2～3 年間の就業経験を持つ人材向けに提供している SkillsFuture プログラムを通じて、初級の MICE 人材教育を行っている。シンガポール政府が初級者向けに提供している主な人材育成プログラムは以下のとおり。
 - インターンシップ（Enhanced Internships）：学生の専門分野に応じ、インターンシップ先企業を斡旋。
 - Study Award For MICE Sector：MICE 産業に 2 年以上従事した経験のあるシンガポール人・MICE 関連企業に就業経験のあるシンガポール人向けに、SACEOS が提供する資格取得支援の講習を提供。また、シンガポール政府が標準化しているホテル産業のクオリティ管理の資格を提供している。
- SACEOS は MICE 産業に従事している人材に資格取得支援の取組を行うほか、MICE や国際会議の誘致入札、催事の持続可能性（ISO）に関するワークショップを提供しており、応用プログラムという位置づけとしている。なお、現在 SACEOS は Ufi とともに、主にアジアの展示会産業の経営・役員層向けに新たな人材育成プログラムの提供を計画している。
- なお、SACEOS は韓国、インド、台湾、フィリピン、マカオ、タイ、マレーシア等の国々における MICE 業界団体・企業と連携し、海外における人材育成講習を実施している。

図表 シンガポール (SACEOS) の人材育成プログラム



出所) SACEOS 公開情報をもとに作成

- SACEOS が連携している主な機関 (海外)
 - Ufi
 - IAEE
 - MPI
- SACEOS が提供している資格認証制度
 - Certified in Exhibition Management (CEM)
 - Certified Meeting Professional (CMP)
- 資格認証制度支援のために独自に実施しているコース
 - Professional Conference Management (PCM)
 - Professional Exhibition Management (PEM)
 - Professional Event Management (PEvM)

プログラム名	対象者	提供内容	提供方法
Singapore MICE Challenge	大学生 (MICE・観光学等専攻の者中心)	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 5~6名の学生同士でチームを作り、シンガポールのMICE産業に関するビジネスプランを考案し、プレゼンテーション大会を実施 ✓ 受賞者は海外のMICE施設や国際会議等に無料招待される 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ Professional Convention Management Associationと連携し、教材等を調達
SkillsFuture	MICE産業で数年間職務経験を有する若手人材	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 展示会・国際会議分野の国際資格取得に向けた講習(SACEOS提供)を受講 ✓ 政府が定めた観光事業に関する講習を受講 ✓ 国内の大学が提供する観光関連の授業を受講(修士号等取得が可能) 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ シンガポール政府労働省によって策定された産業人材育成プログラムの一つ ✓ 政府の特定窓口に応募し、選出された者がプログラムを受ける
資格認証制度	シンガポールのMICE産業に従事する実務者等	<ul style="list-style-type: none"> ✓ CMP、CEMの資格取得に向けた講習の提供 ✓ 上記資格試験の実施と認証 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 国際的な業界団体との連携を通じ教材調達、人材派遣を実施
国際会議・イベントの誘致に向けた入札に関するワークショップ	シンガポールのMICE産業に従事する実務者等	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 入札のスキル向上に向けた講習(ケーススタディなど) ✓ CEMの単位として認定可能 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 過去に入札に関わった経験のある人物やPCO等を講師として招き、教材等作成
MICE Sustainable Certification	シンガポールのMICE産業に従事する実務者等	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 持続可能なイベントの開催に関する講習を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ iCompliという持続可能性研究等実施の国際団体と提携し教材を作成、講師を招聘

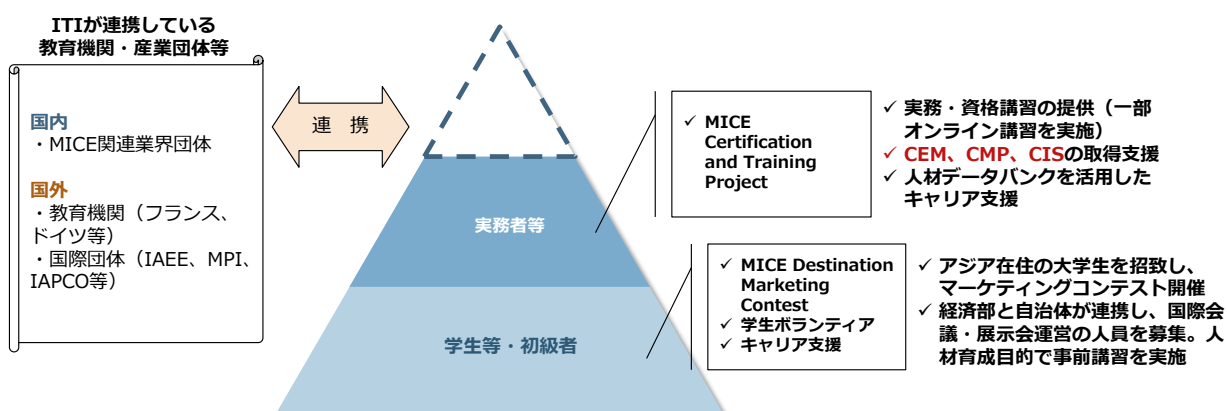
プログラム名	対象者	提供内容	提供方法
その他のワークショップやイベント等	シンガポールの MICE 産業に従事する実務者等	<ul style="list-style-type: none"> ✓ MICE 産業におけるスキル向上、知識習得に向けた講習 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 業界団体との連携により資料作成、講師招聘を行う
アジア大洋州経営人材開発プログラム (Joint Asia Pacific Executive Development Programme)	展示会関連企業の管理職層	<ul style="list-style-type: none"> ✓ Ufi の提供する人材教育プログラムを受講 ✓ Ufi 加盟団体との人材交流の実施等 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ Ufi との連携によって教材等を調達 ※なお、2019 年 1 月覚書締結のため、詳細の内容は公開されていない

出所) SACEOS

(3) 台湾の MICE プログラム

- 概要：台湾では、台湾政府経済部の支援により、国際貿易研究所 (International Trade Institute ; 以下、ITI) が 2005 年から MICE の人材育成プログラム (MICE Certification and Training Project) を創設している。対外貿易による経済振興を志向している台湾にとって、展示会や国際会議は重要な位置づけとなっており、国内外の業界団体や教育機関等と連携したプログラムが実施されている。
- 組織：ITI は、台湾における貿易実務者養成学校として設立されており、主な目的は台湾の貿易振興に関心を持つ社会人や学部卒業生を対象に、語学・経営学・経済学を中心に講座を行っている教育機関としての特徴を持つ (講座のみ提供の短期間コースや、専門職大学院の位置づけとして 2 年間の長期間コースを提供している)。また、ITI は、台北市・新竹市・台中市・高雄市に事務所を持っており、各地方自治体とも連携した講座を提供する場合も存在する。
- 実施内容：MICE Certification and Training Project の構成内容は以下のとおりとなっている。
 - 大学生向けビジネスコンテスト (MICE Destination Marketing Contest) の実施
 - オンライン講座の提供
 - MICE の実務・理論に関する人材育成講座の提供
 - MICE に関連する資格認証制度の提供 (台湾における試験実施)
 - 人材データバンクによる就職・採用支援の実施
- なお ITI の取組とは別に、経済部の支援を受けて、個別自治体が地元の大学向けに MICE 学生ボランティアを導入しているケースも散見される。自治体によっては、学生ボランティアに対し、催事運営に必要な語学や実務スキルの講習を行う場合も存在する。

図表 台湾 (ITI) の MICE 人材育成プログラムのイメージ



出所) International Trade Institute 公開情報をもとに作成

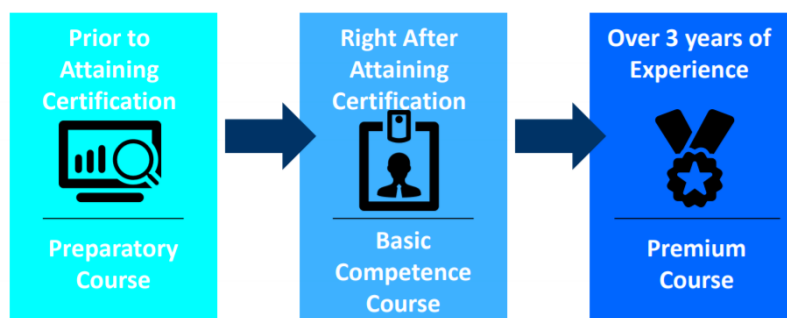
- ITI が連携している主な機関 (海外)
 - IAEE
 - MPI
 - SITE
 - IAPCO
- ITI が提供している資格認証制度
 - CEM
 - CMP
 - CIS

プログラム名	対象者	提供内容	提供方法
MICE Destination Marketing Contest	大学生（台湾以外の学生も応募可能。また、観光学を専攻していない学生もチームに含まれることが望ましい）	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 台湾の MICE 産業に関する課題が与えられ、2~6名の学生で構成されたチームによるプレゼンテーション大会を実施 ✓ 優勝者には賞金や Young Tourism Professional Student Membership（アジア大洋州旅行協会の学生会員加盟権）が与えられる。 ※1年間有効 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ MICE 産業の事業者や業界団体と連携し、マーケティングコンテストの題材を作成 ✓ 他事業者との連携により教材の作成や人材の招聘を実施 ✓ PATA（Pacific Asia Tourism Association）との連携によって賞品の調達
学生ボランティア	大学生等（MICE・観光学等専攻の者中心）	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 国際会議等、催事が開催される際、on-the-job トレーニングとしてボランティア活動に参加 ✓ 催事の前に事前研修を実施するなど、人材育成を目的とした取組が実施されている 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 自治体が地域の大学と個別の連携を通じて人材を募集 ✓ 事前研修は TAITRA や地域のコンベンション・ビューロー等によって講習が行われる
MICE Certification and Training Project	実務者	<ul style="list-style-type: none"> ✓ CEM、CMP、CIS の資格取得に向けた講習の提供 ✓ 上記資格試験の実施と認証 ✓ その他、MICE 関連講習を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ IAEE、CIC 等と連携し教材の作成や講師の招聘を実施

(4) 韓国の MICE プログラム

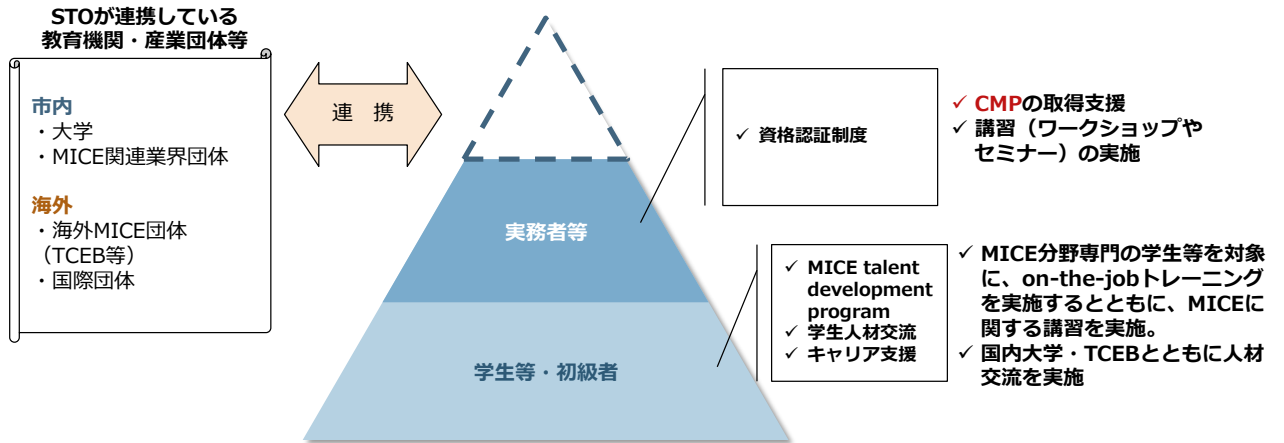
- MICE に特化した人材育成プログラムは、個別都市の観光公社が担うという役割分担となっている。ソウル観光公社 (Seoul Tourism Organization ; 以下、STO) は、初級者向けの研修プログラムとして、MICE Supporters という無償ボランティア制度を持っている。参加者は多くがホスピタリティ・マネジメントや観光分野を勉強している大学生であるが、中には社会人なども登録されている。当ボランティア制度では、英語等の語学試験及び STO が実施する面接試験に合格した若手が、国際会議や国際展示会で誘導・補助・通訳等のボランティアに参加できるようになっている。合格者は、STO の実施する研修に参加し催事当日のオペレーションを担っている。※就職の競争が激しい韓国では、このような実務経験が経歴として認められ、就職活動の際に有利になるため、人気のプログラムとなっている。
- また、STO は、TCEB と市内の大学 (Hallym University 及び Kyunghee University) と覚書を締結し、独自の MICE 向け人材育成プログラムや人材交流の機会を提供している。STO は、2009 年から MPI と覚書を締結し、CMP の資格取得支援を実施している。STO は、経営層向けプログラム等、上級編の人材育成プログラムは保有していない。なお、各自治体の MICE ビューロー (京畿道 MICE Bureau 等) は、人材育成の取組として学生ボランティアを行っている自治体も存在する。
- なお、韓国観光公社 (Korea Tourism Organization ; 以下、KTO) は、観光産業における人材育成プログラムを組成しており、3 年以上の職務経験を持つ人材に対して MICE 教育を実施している。KTO の観光産業における人材育成プログラムは三段階で編成されており、主に学生を対象に観光産業の概観を教育する初級編、観光産業におけるビジネスを教育する中級編、最後にメディカル・ツーリズムやオリンピック等の大規模イベント・MICE 等の専門家を養成する上級編が組成されている。

図表 KTO が提供する観光産業の人材育成プログラムの構成



出所) 韓国観光公社発表資料 (Tourism HumanResources Development Program)

図表 STO の人材育成プログラム



出所) STO 公開情報をもとに作成

- STO 等が連携している機関 (海外)
 - TCEB
- STO が提供している資格認証制度
 - CMP
- 【参考】韓国展示会協会は CEM の資格取得支援を独自に展開している。

プログラム名	対象者	提供内容	提供方法
MICE talent development program	大学生 (MICE・観光学等専攻の者中心)	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 国際会議等開催時、on-the-job トレーニングとして学生を採用 ✓ ボランティア学生 (MICE Supporters) に選出された学生は、催事前の事前研修を受講 ✓ また、ソウル MICE ウィークという催事ではボランティア学生によるプレゼンテーション大会なども実施される 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ ソウル市内で開催される国際会議主催者と連携し、ボランティア学生を選抜 ✓ 事前研修では、市内の業界団体等と連携し、教材の作成や講師の招聘を実施する
学生人材交流	大学生 (MICE・観光学等専攻の者中心)	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 海外の MICE 関連事業者や業界団体所属の人材と交流会や勉強会を実施 ✓ 交換留学を行う制度も創設 (実績は調査中) 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 市内で MICE や観光学部を持つ大学及び TCEB と覚書を締結し、学生の交流会を実施
資格認証制度	実務者等	<ul style="list-style-type: none"> ✓ CMP の資格取得に向けた講習を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 市内のコンベンション協会と協力し、教材等調達 ✓ MPI とは 2009 年 3 月から連携

2) 資格認証制度の事例と関連する教育プログラム

(1) MICE 関連団体が提供している主な資格認証制度と教育プログラム

世界的な業界団体が発行している資格・認証は複数存在する。本調査では MICE のそれぞれを代表する下記の資格認定期間が提供している資格について情報を整理した。

M・I・C を中心とする資格で EIC (Event Industry Council) により提供されている CMP (Certified Meeting Professional)、I に関する業界団体 SITE (Society for Incentive Travel Excellence) により提供されている 3 つの資格、CIS (Certified Incentive Specialist)、CITP (Certified Incentive Travel Professional)、CITE (Certified Incentive Travel Executive)、C に関連する業界団体 ASAE (American Society of Association Executives) の提供する CAE (Certified Association Executive)、E に関連する業界団体 IAEE (International Association of Exhibitions & Events) と UFI (Global Association of the Exhibition Industry) によりそれぞれ提供される CEM (Certified in Exhibition Management) と EMD (Exhibition Management Degree) を対象としている。

またあわせて上記の資格を推奨している他の MICE 関連機関についても提供している教育プログラムについて情報を整理した。

図表 主要な国際業界団体と資格

	M	I	C	E	E		
資格認定機関							
資格名				 	 		
資格推奨機関	   			 			
推奨している国・地域	   			   			

団体名	概要	提供している教育プログラム等	提供・推奨・取得支援している資格・認証
MPI	<ul style="list-style-type: none"> ・ Meeting Professionals International の略称 ・ ミーティングプランナー等を中心に世界各国に 90 もの支部を有する ・ 会員は世界に 17,000 人以上存在する世界の中でも最大規模のコミュニティ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 独自の認証プログラム (Certificate program) を数多く有しており、各認証は CMP 取得のために必要な知識と紐づいており、CMP 取得に必要な単位に互換できる ・ プランナーに対する教育プログラム、施設セールス、イベントデザイン、インシデント対応等の幅広いプログラムを提供 	<ul style="list-style-type: none"> ・ CMP (Certified Meeting Professional) ・ CMM (Certificate in Meeting Management) ・ EDC (Event Design Certificate)
EIC	<ul style="list-style-type: none"> ・ Events Industry Council の略称 ・ 世界に 10 万人以上の会員を有する組織で、過去の名称は Convention Industry Council (CIC) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 世界各国で MICE の国際認証として認知されている CMP を発行する団体 	<ul style="list-style-type: none"> ・ CMP (Certified Meeting Professional)
ASAE	<ul style="list-style-type: none"> ・ American Society of Association Executives の略称 ・ 世界に 42,000 もの個人・法人会員を有する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学協会マネジメントを行う幅広い基礎スキルを保証する資格 CAE を提供 	<ul style="list-style-type: none"> ・ CAE (Certified Association Executive)
SITE	<ul style="list-style-type: none"> ・ Society for Incentive Travel Excellence の略称 ・ 報奨・研修旅行業界を中心としたコミュニティで世界に 2,000 以上の会員を有する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 報奨・研修旅行に求められるスキルを学べる 3 段階のプログラムを提供 ・ 報奨・研修旅行に必要なスキルを保証する 3 つの資格を提供 ・ EIC の提供する CMP 取得を推奨している 	<ul style="list-style-type: none"> ・ CIS (Certified Incentive Specialist) ・ CITP (Certified Incentive Travel Professional) ・ CITE (Certified Incentive Travel Executive) ・ CMP (Certified Meeting Professional)

団体名	概要	提供している教育プログラム等	提供・推奨・取得支援している資格・認証
ICCA	<ul style="list-style-type: none"> ・ International Congress and Conveention Association の略称 ・ 世界 100 カ国・地域に 1,100 の法人会員を有する世界最大規模のカンファレンス業界の業界団体 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 若手の人材育成を目的としたフォーラムの開催 ・ ICCA の有するデータベースの提供 	—
PCMA	<ul style="list-style-type: none"> ・ Professional Convention Management Association の略称 ・ 7,000 以上の法人会員と 5 万以上の個人会員を有し、世界 37 カ国・地域に展開 	<ul style="list-style-type: none"> ・ PCMA Education Foundation においてもスカラシップアワードの提供等を行い人材育成に貢献している 	—
UFI	<ul style="list-style-type: none"> ・ The Global Association of the Exhibition Industry の略称 ・ 世界最大級の展示会業界の業界団体で、展示会の国際認証のレギュレーション等を普及 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 展示会のマネジメント等に関する認証 EMD を創設し提供 ・ また 3 日間の集中セミナーの開催やオンラインセミナーの提供等も行っている ・ さらに展示会場のマネジメントを学べる UFI-VMA Venue Management School 等も実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・ EMD (Exhibition Management Degree)
IAEE	<ul style="list-style-type: none"> ・ International Asscoation of Exhibition and Events の略称 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 展示会の主催・運営に求められるスキルを保証する CEM を提供 ・ その他にもオンラインで学べるプログラムや数日間の短期集中プログラム等も用意 	<ul style="list-style-type: none"> ・ CEM (Certified in Exhibition Management)

以下にアジアの主要国・地域における CMP、CIS、CEM の資格取得者数を整理する。日本は CMP の取得者数は一定数存在するものの、CIS や CEM の取得者数は極わずかである。

他国・地域は、CMP だけでなく、CIS や CEM についても多くの取得者を有していることがわかる。

図表 アジアの主要国・地域の資格取得者数

国・地域	CMP 取得者数	CIS 取得者	CEM 取得者	合計
中国	10	51	628	689
タイ	12	71	144	227
台湾	32	50	133	215
シンガポール	62	0	69	131
韓国	29	0	37	66
日本	21	2	1	24
香港	5	2	6	13

※2019年3月末時点

我が国においては、個人のキャリア形成上、資格取得に対する必要性が薄いことや、国内市場が一定規模存在することから、国際的な資格取得に対する認識やモチベーションが他国・地域に比べ低いことが原因であると考えられる。

しかし国際 MICE はグローバルな市場で誘致競争が繰り広げられることから、国内の事情だけではなく、他国・地域との競争力の観点で資格の必要性等を検討していく必要がある。

次頁以降に各業界団体が提供している教育プログラムや、資格取得に求められる知識等について整理した。

(2) MICE 関連団体が提供している教育プログラム

① MPI による研修・認証プログラム

ミーティング・イベント産業における世界最大規模の業界団体である MPI では、会員同士のネットワークや協働、人材育成を組織の理念に掲げている。MPI は世界の 90 カ国に支部を持ち、各国でミーティング・イベントを中心とする企画や人材育成の取組を展開している。日本の支部（ジャパン・チャプター）は、1995 年に創立されて以降、日本の MICE 産業に係る勉強会や専門家を招聘して開催する講演会等の教育プログラムを提供している。

MPI は、MPI アカデミーという教育・人材育成に係る取組を実施する部門を創設しており、ミーティング・イベント産業に関わるワークショップやセミナー等様々な研修プログラムを提供している。また、Events Industry Council (EIC) と提携し、CMP 取得に必要な科目を提供することで資格取得の支援を行うほか、独自の資格を設置している。

MPI アカデミーでは、主に MICE 業界に従事している人材を対象に、有料のワークショップやセミナー等を開講している。MPI ではワークショップやセミナーの提供方法は、ストリーミング（オンラインライブ）による配信、収録したセミナーのオンラインビデオによる配信、参加形式による講義となっている。ワークショップやセミナーのテーマは大きく以下の 13 種類に分類される。

図表 MPI アカデミーが提供する研修の主なテーマ

テーマ
✓ キャリア開発
✓ CSR
✓ 起業
✓ 体験型教育プログラムの設計
✓ 医療および薬事
✓ リーダーシップと組織管理
✓ 法務・コンプライアンス
✓ ミーティング・イベントデザイン的设计
✓ プロジェクト管理
✓ 安全
✓ セールス・マーケティング
✓ MICE の戦略策定
✓ MICE に関するテクノロジー

出所) MPI 公開情報より作成

また、MPI は、ワークショップやセミナーの対象者を初級者・中級者（実務者）・上級者（管理職層等）の3階層に明確に区分しており、各階層のスキル・レベルに応じてワークショップやセミナーの内容を変更している。なお、初級者は MICE 産業での実務経験が 0~3 年未満の者、中級者（実務者）は MICE 産業での実務経験が 4~10 年未満の者、上級者（管理職層等）は MICE 産業での実務経験が 11 年以上としている。

CMP 取得・更新に係る単位認定制度では、MPI が主催する一部のセミナーで CMP の取得・更新に必要な単位を認証している。すなわち、受講者が単位互換の認められている講習に参加することで、EIC が定めた講習に限らず CMP の取得・更新が可能となる。欧米の MPI 支部（チャプター）では、MPI が提供する一部のセミナーで単位互換が認められていることから、CMP の取得・更新に重要な役割を担っている。なお、CMP の単位互換が認められている講習は、MPI が独自に設定した資格とされており、受講（取得）により、MICE 産業の関係者から信頼を得られるものとしている。

以下に、単位認定制度に該当する講習を記載する。

図表 CMP の単位互換が認められている講習

プログラム名	対象者	提供内容	提供方法
Meeting Essentials	✓ミーティングやイベント運営の初級者・中級者	✓イベント運営の専門家養成に必要な基礎科目（マーケティング、財務等含む 10 科目） ✓28 時間の講習	✓オンライン動画にて提供し、各個人のペースに合わせた受講が可能となっている
Going Local Certificate Program	✓主催者、ミーティングプランナー	✓開催地の特性を活かす、開催地のサプライヤーとの協業等に重点を置いた研修内容 ※MIC に対応可	✓オンライン動画
Meetings and Events at Sea	✓主催者・ミーティングプランナー（特に海上での開催を想定）	✓海上開催のイベントに関する基礎知識 ✓4 時間の講習	✓オンライン動画 ※受講後試験は実施されない

プログラム名	対象者	提供内容	提供方法
Sustainable Meeting Professionals Certificate	✓主催者・ミーティングプランナー	✓持続可能なイベント運営に関する基礎知識 ※ISO20121 及び APEX/ASTM に準拠した内容 ✓3 時間の講習	✓オンライン動画 ✓MPI は Avila Government Service 社と提携し、研修内容を制作
Value Sales Certificate Program	✓ホテル、コンベンション施設、会議・イベント施設	✓会議誘致に向けたマーケティングの講習や、ディスカッションを通じた研修 ✓8 時間の講習	✓オンライン動画
Basics Boot Camp	✓ミーティングプランナー	✓会議運営に関する基礎的・応用的知識の研修 ✓パート1 とパート2 に分かれており、各3 時間の講習	✓対面講習/ライブ
Business Value of Meetings (BVOM) Certificate	✓ミーティングプランナー	✓会議の価値計測に関する研修（主な講義内容は、ステークホルダーの特定・ゴールの設定・計測方法の設定・計測） ✓6 時間の講習	✓ライブ ✓Plan Your Meetings（ミーティングプランナー向け非営利団体）と提携しコンテンツを開発
Certificate in Meeting Management (CMM)	✓ミーティング実施事業者の管理職・役員層	✓3 部構成（オンライン講習、ディスカッション、ケース課題）による経営管理・戦略に関する人材育成プログラム ✓48 時間（4 日間）の講習	✓オンライン及び対面講習

プログラム名	対象者	提供内容	提供方法
Crisis Communications	✓主催者、ミーティングプランナー	<ul style="list-style-type: none"> ✓会議実施中の危機管理について、危機（災害・テロ）の種類、危機発生時のコミュニケーション（SNSの活用含む）、ケース課題について提供しディスカッション等実施 ✓6時間の講習 	<ul style="list-style-type: none"> ✓対面講習 ✓Plan Your Meetings（ミーティングプランナー向け非営利団体）と提携しコンテンツを開発
Emergency Preparedness for Meetings & Events	✓ミーティングプランナー	<ul style="list-style-type: none"> ✓重大事故に対する防止策・準備・対策・復旧策の講習。危機管理戦略の構築に関する講義 ✓6時間の講習 	<ul style="list-style-type: none"> ✓対面講習 ✓南ミシシッピ大学の National Center for Spectator Sports Safety and Security と提携しコンテンツを開発
Event Design Certificate	✓ミーティングプランナー	<ul style="list-style-type: none"> ✓10ステップアプローチと呼ばれる会議のデザイン手法に関する講習 ✓24時間（3日間）の講習 	<ul style="list-style-type: none"> ✓対面講習/ライブ ✓プロトタイプ（#EventCanvas）を活用 ✓サンディエゴ州立大学ホスピタリティ・観光学部と提携し、コンテンツを開発

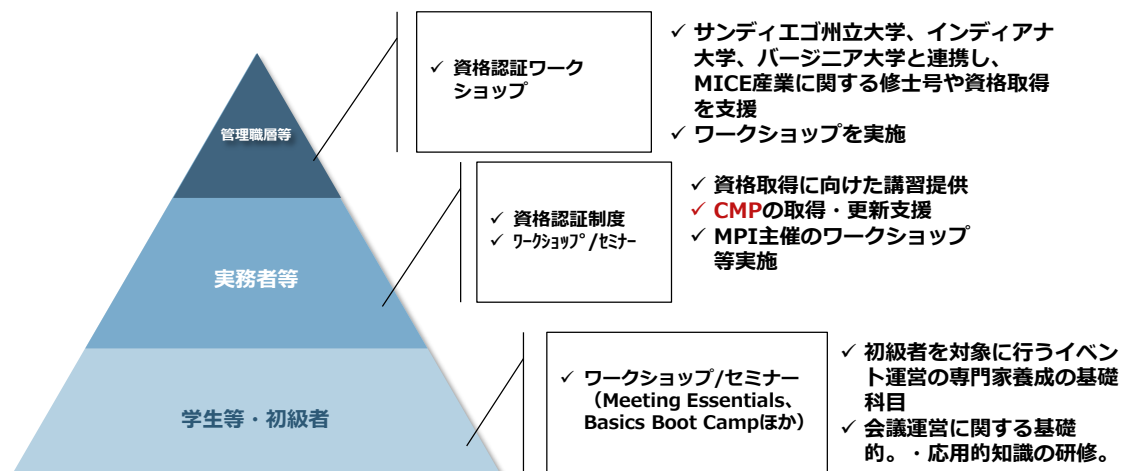
プログラム名	対象者	提供内容	提供方法
Experiential Event Series Certificate	✓ミーティングプランナー	✓参加型会議（SXSW等のイベント含む）の運営等に関する講習 ✓20時間の講習	✓対面講習
Healthcare Meeting Compliance Certificate	✓ミーティングプランナー	✓医療系会議に関する講習 内容：医療分野の基礎知識、医療業界のプレイヤーに関する基礎知識、医療関係に規制に関する基礎知識 ✓4時間の講習	✓試験は実施しない ✓対面講習/ライブ ✓2年ごとの更新が必要（更新の講習も実施）
Women in Leadership	✓ミーティングプランナー（主に管理職・役員層）	✓女性の活躍推進に関する管理職向けプログラム ①ミーティング産業におけるビジネスリーダー、②課題・解決、③アクションプランの作成、④開発資源の構築に関する講習を実施 ✓4時間の講習（各講義1時間）	✓対面講習

なお、MPI ジャパン・チャプターが 2019 年 2 月 20 日に開催したセミナー（「日本に求められる MICE の対応～What International MICE planners are looking for」）は、日本で初めての CMP 単位認定の対象となっている。MPI ジャパン・チャプターによると、単位取得対象セミナーの認定には、戦略計画策定、プロジェクト管理、リスク管理、財務管理、人事、利害関係者管理、会議/イベント設計、サイト管理、マーケティングといった、同資格の国際基準で定められた 9 つの MICE 専門領域との整合性が求められるとしている。国内 MICE 産業従事者の CMP 資格取得が進み、国際的なミーティング産業に通用する人材育成の加速が期待される中、MPI ジャパン・チャプターでは今後も開催セミナーの CMP 単位認定を進めることを表明している。

MPI が提供している人材育成プログラムは、初級者、中級者（実務者）、上級者（管理職層等）に分類することが出来る。初級者に対する取組として、ワークショップ/セミナーが挙げられ、一部の講習は CMP の単位互換講習として認定されている。中級者（実務者）に対する取組として、MPI は CMP の取得・更新に係る講習の提供やワークショップやセミナーの主催を実施している。また、上級者（管理職層等）に向けては、**Certified Meeting Management** という独自資格の制定や、アメリカの高等教育機関との連携による MICE 産業関連の修士号取得等を実施している。

特に管理職層向けの人材育成プログラムに力点を置いており、なかでも **Certified Meeting Management** の提供者はインディアナ大学（Indiana University Kelley School's Executive Degree Program Business Management Certificate）となっている。当プログラムではミーティング・イベント関連業界やビジネス旅行業界で 7 年以上の職務経験を有し、かつ 3 年以上管理職層として従事し、さらに 2 年以上企業の収支管理に関与した経験を持った人物を対象となっている。また、サンディエゴ州立大学（L. Rovert Payne School of Hospitality & Tourism Management）と提携し、修士号（The Meeting and Event Management Master）の提供を行っている。その他、バージニア大学（Darden School of Business, Executive Education）と提携し、「デザイン思考とイノベーション」のオンライン授業の提供を行っている。

図表 MPI が提供している人材育成プログラムの概要



※MPIは各受講者の定義を以下のとおり設定していると考えられる。

- ・初級者：MICE産業への勤務年数が0～3年未満
- ・中級者（実務者）：MICE産業への勤務年数が4～10年未満
- ・上級者（管理職層等）：MICE産業への勤務年数が11年以上

② SITE による研修・認証プログラム

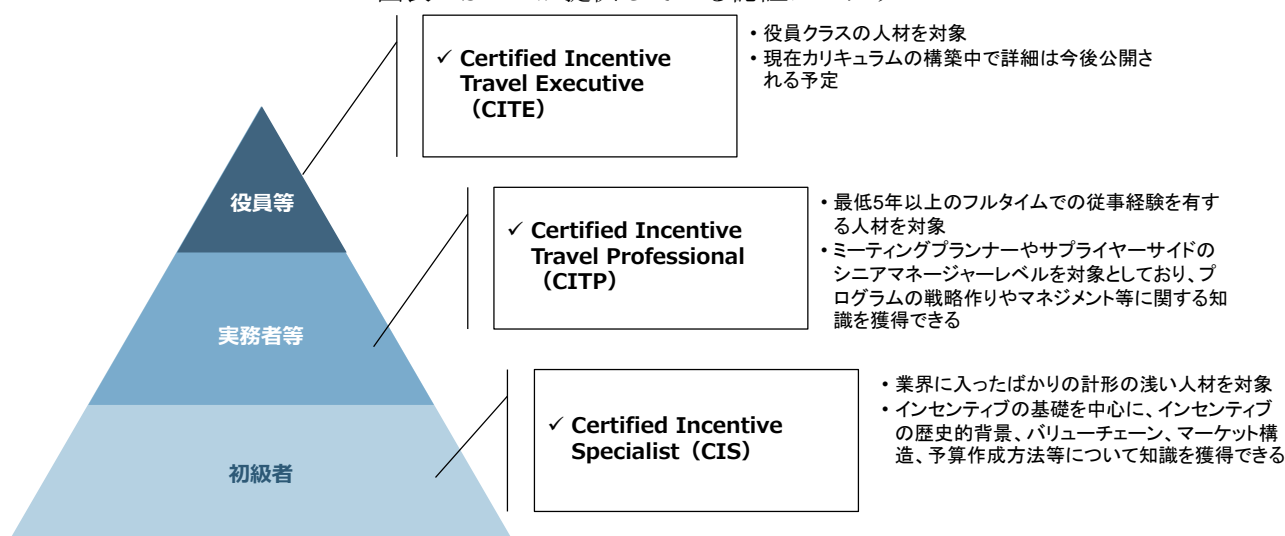
SITE ではインセンティブに従事する人々を 3 つの属性に分類し、それぞれの役割や求められるスキルを明確にしている。SITE が分類する属性は、「Coordinator」、「Manager」、「Director」の 3 種。Coordinator は催事の企画や実行を支援する人物、Manager は利用可能なリソースを効率的・効果的に使いながら目的達成のために業務を取りまとめる人物、Director は Manager のうち会社やプログラムの特定領域においてリードできる人物と定義している。

図表 SITE が定義しているインセンティブ従事者の属性と求められるスキルや業務（抜粋）

項目	必要な能力	求められる業務		
		Coordinator	Manager	Director
Business Case for Incentive Travel	Incentive Program Design	<ul style="list-style-type: none"> ・ 宿泊、輸送、娯楽、機材、登壇者等の手配 	<ul style="list-style-type: none"> ・ プログラムの目標設定・調整 ・ プログラム環境のデザイン ・ プログラムの成果や ROI の評価・検証 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ステークホルダーとのプログラムの目標等の定義づけ ・ プログラムの目標設定・調整
	Strategic Planning	—	<ul style="list-style-type: none"> ・ プログラムに活用できるリソースの把握 ・ 価値のデザイン ・ 顧客のミッション、ビジョンや価値をプログラムへ反映 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関連プレイヤーの把握や彼らのニーズ特定 ・ インセンティブとモチベーションの関連付けに対する説明 ・ プログラムの戦略的プランの開発
Selling to the Incentive Travel Market	Sales	<ul style="list-style-type: none"> ・ RFP への対応 ・ 販売計画の実行 	<ul style="list-style-type: none"> ・ RFP への対応 ・ 契約の調整 ・ 販促活動の管理 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 販売計画の開発・実行 ・ 顧客リレーション管理 ・ 成果に対する評価
Managing Incentive Travel Programs	Financial Management	<ul style="list-style-type: none"> ・ コスト削減方法の把握 ・ 予算の把握 	<ul style="list-style-type: none"> ・ コスト削減方法の把握 ・ 予算と資金源の把握 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 予算、活動実績、収支予測の準備 ・ 予算と資金源の把握 ・ 財務上の決定支援
	Risk Management	<ul style="list-style-type: none"> ・ 不測の事態への対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・ リスクの同定と評価 	<ul style="list-style-type: none"> ・ リスクに対する対応検討 ・ 不測の事態への対応とリスク最小化の検討

さらに SITE では業務従事者のレベルに応じた 3 つの認証制度を展開している。認証は業界に従事して間もない人材を対象とした Certified Incentive Specialist (CIS)、業界内で一定の経験を積んだ人材を対象にする Certified Incentive Travel Professional (CITP)、役員クラスを対象にする Certified Incentive Travel Executive (CITE) を用意。

図表 SITE が提供している認証プログラム



SITE では上記の 3 つの認証を提供しており、対象者のレベルに応じた内容を提供している。さらに自身の提供する認証に加え、EIC が提供する CMP の公式プロバイダー (preferred provider) にもなっている。そのため SITE が提供する教育プログラムは CMP の取得のためのクレジットとして利用することも出来る。

SITE が提供している教育プログラムは下記の通り。CITP 取得支援となるレベルのプログラムが中心となっている。

図表 SITE が提供している教育プログラム

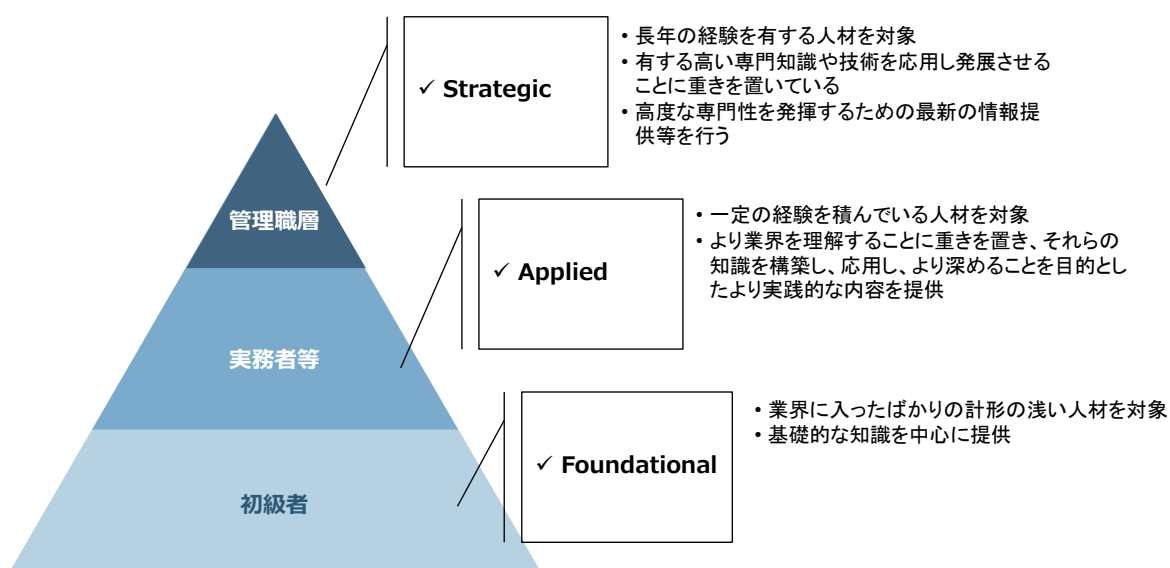
プログラム名	対象者	提供内容	提供方法
The CITP Online Certification Preparation Course	・ 業務経験が一定年数あるマネジメント層が中心	<ul style="list-style-type: none"> ・ 下記の 9 項目に関するプログラムを提供（各 3.5 時間ずつ） ・ strategic planning, ・ incentive program design ・ sales ・ professional development ・ program management ・ technology ・ financial management ・ CSR and sustainability ・ risk and crisis management 	オンライン
The Business Case for Incentive Programs	・ プランナーや DMO/DMC、CVB、ホテル、MICE 施設等のサプライヤーサイドの業務従事者	<ul style="list-style-type: none"> ・ なぜインセンティブが重要なのか、について学ぶことが出来るプログラム ・ 3 つのコンテンツから構成される 	セミナー
Selling to the Incentive Market		<ul style="list-style-type: none"> ・ 受講者のセールススキルを向上させるためのプログラム ・ 5 つのコンテンツから構成される 	
Managing Incentive Travel Programs		<ul style="list-style-type: none"> ・ プログラムのマネジメントについて学ぶためのプログラム ・ デリバリー、マネジメント、サービスの 3 つの主要要素を学ぶために、4 つのコンテンツが用意されている ・ スペインのホテル事業者である Melia Hotels International の協力のもと提供されているプログラム 	

③ ASAE による研修・認証プログラム

ASAE では主に会議・学会を中心とした関連事業に従事する人材向けの教育プログラムを提供している。ASAE の提供する教育プログラムは 3 つのレベルに分類されており、基礎的な内容に重きを置いた「**Foundational**」、一定の業務経験を有する人材を対象とした「**Applied**」、より高い専門性や技術力が求められる「**Strategic**」が用意されている。

また教育プログラムは、オンラインで学べる「**ASAE Learning Online**」や「**Online Seminars Series**」、1 日から 1 週間程のセミナーやシンポジウム形式で学べる「**In-Person Courses**」や「**Conferences**」というプログラムが用意されている。さらに ASAE の発行している認証制度である CAE や、EIC が提供している CMP のクレジットとして利用できる「**Certificate Programs**」も用意されている。

図表 ASAE が提供している教育プログラムのレベル



図表 ASAE が提供している教育プログラム

プログラム名	対象者※	提供内容	提供方法
ASAE Learning Online	Foundational Applied Strategic	<ul style="list-style-type: none"> ・ オンラインで受講できるプログラム ・ 受講者のニーズに合わせて幅広いトピックを用意しており、財務、法務、人事等の基礎的な内容からリーダーシップやマネジメント等の発展的な内容までが学べる 	オンライン
In-Person Courses	Applied Strategic	<ul style="list-style-type: none"> ・ 対面式で実施される半日のセミナーから 1 週間にわたるワークショップまで幅広いメニューを用意 ・ 一定の業務経験を有する人材が、さらに知見や知識を広げるため、もしくは新しい領域にチャレンジするために参考となるコンテンツを提供 ・ 「CEO Symposium」、 「Executive Leadership Forum」等の管理職・経営層向けのプログラムも存在 	セミナー ワークショップ
Certificate Courses	Applied Strategic	<ul style="list-style-type: none"> ・ 修了証を発行するプログラムで、CAE 取得のクレジットとして利用できる ・ 「Association and Nonprofit Management Graduate Certificate」、「Certificate Program in Association Management」、「The Business of Meetings Certificate Program」の 3 種類のコースが存在する ・ 一部授業はメリーモント大学により提供されている。 	講義

※Web の記載内容から判断して記載

④ ICCA による研修プログラム

ICCA は他の国際的な業界団体に比べ、自身で企画・実施している教育プログラムの数は多くない。しかし Web ページを通じて会員向けの国際会議データベースの提供や、会議・学会の成功事例の拡散等に力を入れている。

また「ICCA Education Fund」という基金を提供しており、業界の若手の人材育成に注力している。当基金の代表的な利用用途は「Forum for Young Professionals/ICCA Youth Forum」と呼ばれるフォーラムの開催費用に当てられている。この基金は ICCA のメンバーやネットワークの中から集めた寄付金で出来ており、業界の若手育成を目的に資金が集まっている。

図表 ICCA Education Fund で開催される若手を対象にしたフォーラム

プログラム名	対象者	提供内容
Forum for Young Professionals/ICCA Youth Forum	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3 年程度の業務経験を持つ若手 ・ 30 歳以下であることが参加条件 	<ul style="list-style-type: none"> ・ IBTM の開催に合わせて毎年バルセロナで開催される 30 歳以下の若手を対象にしたカンファレンス ・ 3 日間のカンファレンスでは、セミナーだけではなくグループワーク等も用意されている ・ プログラムは全て CMP のクレジットとして使うことができ、Web サイトに記載されているプログラムには、各セッションに CMP で定義されているどのスキルに該当するものが明記されている。

⑤ PCMA による研修プログラム

PCMA はセミナー、ブートキャンプ、オンライン等の様々な手法で数多くの教育プログラムを提供している。PCMA 自身は認証制度等を発行しているわけではないものの、EIC の提供する CMP と ASAE の提供する CAE の公式プロバイダーとなっており、PCMA の提供する各種プログラムは CMP や CAE のクレジットとして利用できる。

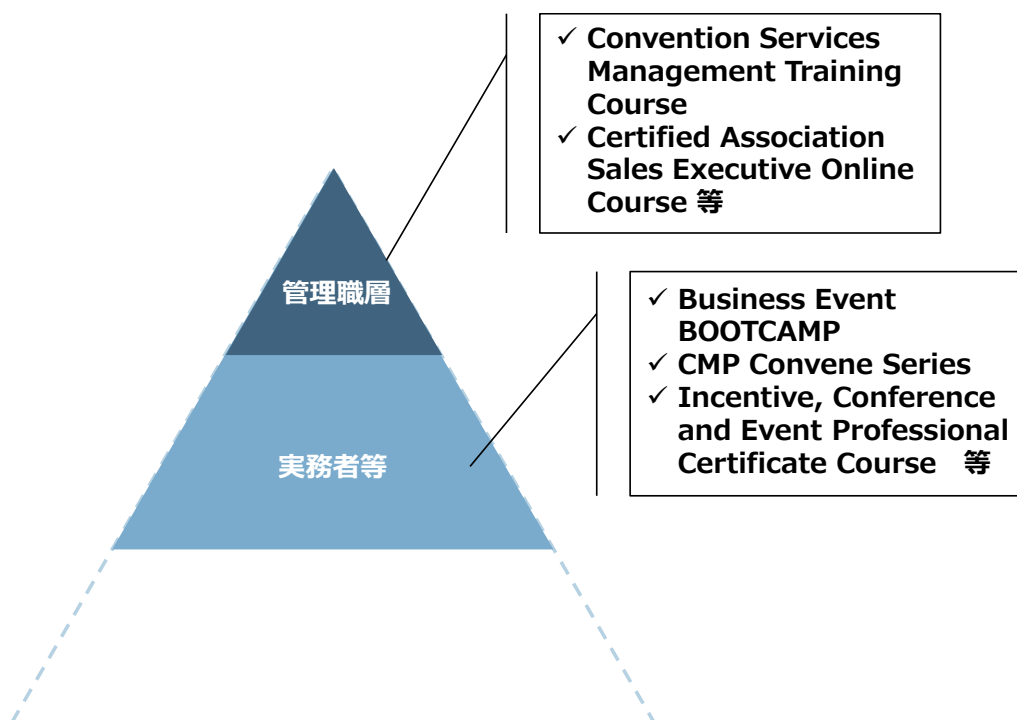
図表 PCMA が提供している教育プログラム

プログラム名	対象者	提供内容	提供方法
CMP Online Prep	・ CMP 取得予定者	<ul style="list-style-type: none"> ・ CMP の取得に必要な知識を学べるオンライン学習プログラム ・ CMP 取得に必要なクレジットの内、68 時間 (Clock Hour) に相当するプログラム 	オンライン
CMP Convene Series	・ CMP 取得予定者	<ul style="list-style-type: none"> ・ CMP 取得に役立つマンスリー雑誌を提供 ・ 1 つの雑誌あたり、1 時間の Clock Hour が取得できる 	雑誌
Business Event BOOTCAMP	<ul style="list-style-type: none"> ・ プランナー ・ CMP、CAE 取得予定者 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 企業内等で研修教材として利用できる教育プログラムのパッケージ ・ イベントデザイン、リスクマネジメント、デジタルイベント、収益の生み方、マーケティングの 5 つのプログラムから構成される ・ CMP と CAE のクレジットとして利用できる、14.5 Clock Hour が取得できる 	オンライン

プログラム名	対象者	提供内容	提供方法
DES (Digital Event Strategist) Certification	<ul style="list-style-type: none"> ライブストリーミングやデジタルイベントの主催者、プランナー 	<ul style="list-style-type: none"> デジタル技術を使ったイベントやインターネット上でのストリーミング等を行うイベントの企画を対象としたプログラム デジタルイベントの導入、UX（ユーザーエクスペリエンス）、コンテンツ戦略等、計10のプログラムが用意されている 	オンライン
CASE (Certified Association Sales Executive) Online Course	<ul style="list-style-type: none"> ミーティングプランナー、PCO 等 	<ul style="list-style-type: none"> 会議・学会の市場構造や組織構造、近年のトレンド等の基礎情報から、マネジメント戦略やスポンサー獲得戦略、クライアントとの長期的な関係構築等の多岐にわたる項目を計10のコースで学ぶことができる また CMP と CAE のクレジットとして利用でき、35 Clock Hour が取得できる 	オンライン
Incentive, Conference and Event Professional Certificate Course	<ul style="list-style-type: none"> MIC 関連業務従事者 	<ul style="list-style-type: none"> MIC を中心に業界の概要や近年のトレンド等の基礎知識から、求められる法務、財務コンプライアンス等の専門知識に対する知識を習得できる 	オンライン
CSM (Convention Services Management) Training Course	<ul style="list-style-type: none"> ホテル、PCO、CVB、MICE 施設のコンベンションサービスマネージャー 	<ul style="list-style-type: none"> コンベンションのマネジメント層向けの教育プログラムで3日間にわたり実施される イベントプランニング、販売戦略、クライアントとのリレーションマネジメント等、マネジメントの立場から求められる実務を学ぶことができる 	対面式セミナー
Webinars	<ul style="list-style-type: none"> MIC 関連業務従事者 	<ul style="list-style-type: none"> 資格取得のためのコースや、人事、財務、法務等の個別トピックに対応するコースと多様な Web セミナーが用意されている 	オンライン

PCMA の提供するプログラムの多くは、CMP や CAE の取得支援を目的としたプログラムや、MIC を中心とする実務者向けのプログラムが豊富である。各プログラムは CMP や CAE 取得のクレジット (Clock Hour) として利用できる。一方で経営や管理職向けのプログラムも用意されている。しかし学生や業界に参画したばかりのプレイヤーに対するプログラムはほとんどみられない。

図表 PCMA が提供している教育プログラムのレベル



⑥ UFI によるプログラム

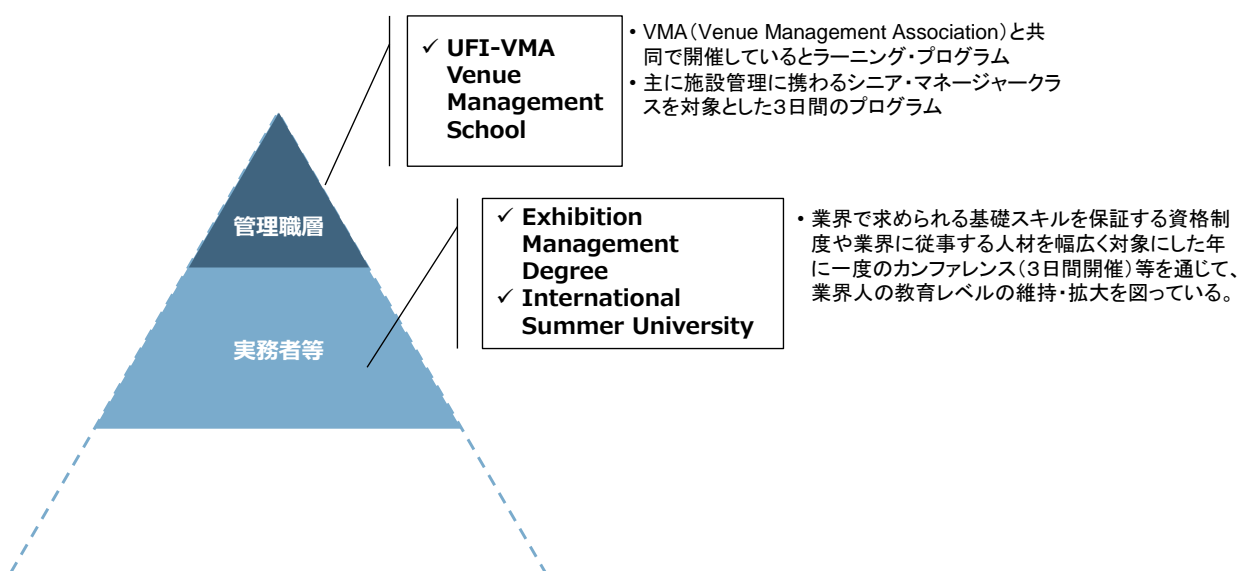
UFI は 1925 年にイタリア・ミラノで設立された展示会業界の国際的な業界団体である。現在の名称は“The Global Association of the Exhibition Industry”となっているが、設立当初は“Union des Foires Internationales”であったため「UFI」との略称で呼ばれている。

UFI では Exhibition Management Degree (EMD) という資格を発行しており国際的な展示会産業の発展に努めている。

また EMD 以外にも「International Summer University」という名のカンファレンスの開催や、「UFI-VMA Venue Management School」という名のトレーニング・プログラムを Venue Management Association (VMA) とともに開催する等の取組みを行っている。

EMD や Internatinal Summer University については、既に業界で業務に従事している人材の基礎力の向上や、ネットワークや新たな知見の拡大を目的に実施されている。一方で VMA とともに提供している Venue Management School については、シニアマネージャークラスを対象にした施設マネジメントに特化したプログラムとなっている。

図表 UFI が提供している教育プログラムのレベル



図表 UFI が提供している教育プログラムの概要

プログラム名	対象者	提供内容	提供方法
Exhibition Management Degree	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一定程度業務経験のある人材 ・ 次世代のマネジメント層（展示会主催者、展示施設、行政や協会に従事する人材） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 展示会産業のプロフェッショナルとして求められるスキルや知識を学部ことができる認証制度 ・ トータル 150 時間に及ぶプログラムを受講すると資格が付与される ・ 初日 4 日間のセミナー形式の講座と、その後のオンラインプログラムで受講を行う（計 4~5 か月） 	セミナー オンライン
International Summer University	<ul style="list-style-type: none"> ・ 業界に従事する人材 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎年開催される 3 日間に及ぶカンファレンス ・ 参加者のネットワーキング拡大や新たな知見獲得等を目的に開催している ・ セミナー形式のセッションだけでなく議論やネットワーキングを行うセッション等、多様なセッションで構成される 	カンファレンス
UFI-VMA Venue Management School	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施設管理を行うマネージャー層 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施設管理に従事するシニアマネージャークラスをターゲットとしたプログラム ・ 3 日間にわたるプログラムの中で、セキュリティマネジメント、災害マネジメント等のリスクマネジメント、リーダーシップ、人材育成、顧客マネジメント、イベント運営、プランニング、マーケティング等の様々な項目をマネージャーの視点で学ぶことができる 	セミナー

⑦ IAEE によるプログラム

International Association of Exhibition and Events は、1975 年から展示会産業に従事する専門家のスキル・実務レベルの維持・向上を目的として Certified in Exhibition Management (CEM) という資格制度を開始した。CEM 認定者は展示会・イベント産業における卓越した催事関係者・産業の牽引役としての象徴となっており、催事運営に関する最も実務的教育を受けた人物として捉えられている。2019 年、IAEE は CEM を核として、展示会産業に携わる人材のスキルに応じた育成プログラムを拡張しており、一連の人材育成プログラムの流れを IAEE Certification Journey と称している。人材が流動的である展示会産業（イベントやホスピタリティ・マネジメント業界全般を含む）において、様々な経験・職務経験を有する人材が産業に転入するとされている。産業内で多様な人材を抱える中で、IAEE は展示会産業におけるキャリア構築の経路を定義し、あらゆる人材が業界標準を身につけられるようなプログラムを設立している。これにより、展示会産業全体の人材のスキルアップを図っている。

IAEE Certification Journey は、以下の 5 つの認証によって構成されている。

図表 IAEE Certification Journey のプログラムの内容

プログラム名	対象者
Workforce Ready Assessment	展示会産業の勤務経験無し
CEM Certified	展示会産業の勤務年数：3～5 年
CEM-Advanced Professional	CEM 保有者で展示会産業の勤務年数：10 年以上
CEM Fellow	CEM-AP 保有者で展示会産業の勤務年数：20 年以上
CEM Emeritus	61 歳以上



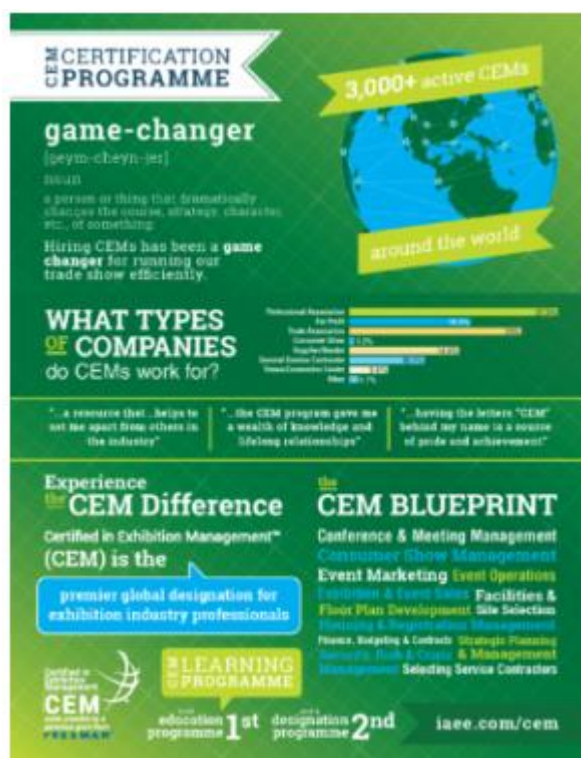
出所) IAEE Certification Journey ホームページより作成

IAEE Certification Journey を構成する各認証は、展示会産業に従事した年数に応じて内容が異なり、認証を受けるためにはスキルやレベルに応じた講習を受講する必要がある。

Workforce Ready Assessment は展示会産業での勤務経験を持たない人材を対象に、展示会産業の基礎講座が主な内容となっている。さらに、自身のスキルや性格の特徴等を分析する講習が含まれている。受講者は 100 の質問項目が配布され、その回答内容によって自身の強み・弱み等の傾向が把握できる。

CEM Certificated は、展示会産業での勤務年数が 3~5 年の人材を対象に、CEM の資格取得に向けた講習等を実施するプログラムとなっている。CEM は国際認証としての認知度が高く、展示会産業の業界標準となっている。

図表 CEM のパンフレット



出所) IAEE ホームページ参照

CEM Advanced Professional (CEM-AP) は、CEM の資格取得者のうち、展示会産業における勤務年数が 10 年以上の人材を対象としている。なお、資格取得のためには IAEE が認証している講習 30 単位分をあらかじめ受講する必要がある。CEM-AP の講座では、ジョージタウン大学 (McCourt School of Public Policy) 教授の提供する 2 日間の講習を受けた上で、筆記試験 (CEM 委員が認可したケース試験) を合格する必要がある。CEM-AP は 5 年毎に更新が必要で

あり、更新のためには IAEE が認証した講習 15 単位分の取得が必須となる。

CEM Fellow は、CEM-AP の資格取得者のうち、展示会産業における勤務年数が 20 年以上の人材を対象としている。CEM Fellow は、展示会産業に長期に渡ってリーダーシップを発揮した人材に対する名誉賞としての位置付けとなっており、試験・講習は実施しない。

CEM Emeritus は CEM 資格取得者のうち、61 歳以上の人材を対象としたプログラムとなっている。CEM Emeritus は、展示会産業における従事者を表す資格となっており、試験・講習は実施しない。なお、認定以降更新の必要はない。

IAEE は、独自の認証プログラムとして IAEE Certificate Journey を設立しているが、資格制度としては新設（2019 年設立）のものであるため、展示会産業内で認知度が高まり、信頼獲得には一定程度の期間を要すると考えられる。以下では、1975 年から設立されており、業界内での認知度・信頼も高い CEM について整理する。

図表 IAEE のプログラム概要

プログラム名	対象者	提供内容	提供方法
The Certified in Exhibition Management (CEM) Professional Designation 展示会管理認証	<ul style="list-style-type: none"> 主催者、公共団体、教育機関、企業イベント/展示会マーケター等 (IAEE 会員/非会員) 展示会産業で正規雇用として 3 年以上の勤務経験を有する者 	<ul style="list-style-type: none"> 12 種類の授業形式のセミナーのうち、9 種類を選択可能。※1 受講後 90 日以内に各コースの修了試験を実施 	<ul style="list-style-type: none"> IAEE への申込書に記載の上、アプライ 対面受講・オンラインコースによる提供 講習内容・試験内容等は CEM 委員会によって決定されている 通学制の場合、世界各地で実施※2 受講生は 3 年間でコースを修了する必要がある
Online Workplace Violence and Active Shooter Preparedness Training	<ul style="list-style-type: none"> 展示会・イベント主催者、公共団体、教育機関等 (IAEE 会員/非会員) 	<ul style="list-style-type: none"> 60 分間のオンライン研修 (Think and Survive: Work Place and Active Shooter Preparedness” (人的被害を生じうる事態・銃乱射等への備えや対処法に関するレクチャー) 	<ul style="list-style-type: none"> アメリカで CEM 取得の場合は対面研修で必須の受講科目 アメリカ以外で CEM 取得の場合はオンラインでの受講 (希望性) なお、IAEE 会員には受講料割引が適用される

Webinars	<ul style="list-style-type: none"> ・ 催事主催者 (IAEE 会員/非会員) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 展示会・イベント産業に関わる経営者、イノベーションリーダー等によるパネルインタビューやレクチャー等。内容は、展示会・見本市やイベント事業に関する事業戦略、課題解決策等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ オンラインによる視聴 (IAEE 会員は無料で視聴可能。過去の動画も含む)
----------	---	---	---

※1 12 種類のコースとは、以下のとおり

- ・ Conference and Meeting
- ・ Management
- ・ Consumer Show Management
- ・ Event Marketing
- ・ Event Operations
- ・ Exhibition and Event Sales
- ・ Facilities and Site Selection
- ・ Finance, Budgeting and Contracts
- ・ Floor Plan Development
- ・ Housing and Registration
- ・ Management
- ・ Security, Risk, and Crisis
- ・ Management
- ・ Selecting Service Contractors
- ・ Strategic Planning and Management

* Online Workplace Violence and Active Shooter Preparedness Training は The Power of Preparedness 社が提供する安全・リスク・危機管理の事前研修を受講する必要がある。事前研修は無料コースとなっている。

※2 CEM は世界各国で実施されている。以下の国において、支給が行われている。アメリカ、カナダ、バーレーン、ブラジル、カンボジア、中国、ドバイ、東ティモール、インド、インドネシア、韓国、クエート、ラオス、マレーシア、メキシコ、ミャンマー、オマーン、フィリピン、ポルトガル、カタール、サウジアラビア、シンガポール、スペイン、台湾、タイ、アラブ首長国連邦、ベトナム

IAEE の CEM Learning Program（海外の業界団体によって提供されている例）。IAEE は、他国の業界団体と連携協定を締結し、CEM 認定の事務局代行業務を委託している。

例として、シンガポール拠点の Singapore Association of Convention & Exhibition Organisers & Suppliers (SACEOS) の例が顕著となっている。SACEOS はシンガポールにおける CEM ライセンス認定機関（事務局）として資格認定事業を受託している。

図表 SACEOS が提供する CEM 取得のプログラム

プログラム名	対象者	提供内容	提供方法
CEM Learning Programme	<ul style="list-style-type: none"> ✓主催者、公共団体、教育機関、企業イベント/展示会メーカー等（IAEE 会員/非会員） ✓展示会産業で正規雇用として3年以上の勤務経験を有する者 	<ul style="list-style-type: none"> ✓9 つの研修内容を全て受講し、各講習後 90 日以内に試験を実施 ✓3 年以内の資格取得が必須 	<ul style="list-style-type: none"> ✓対面授業 ✓一部オンラインも可能

*SACEOS が提供している 9 つの講習は以下のとおり。

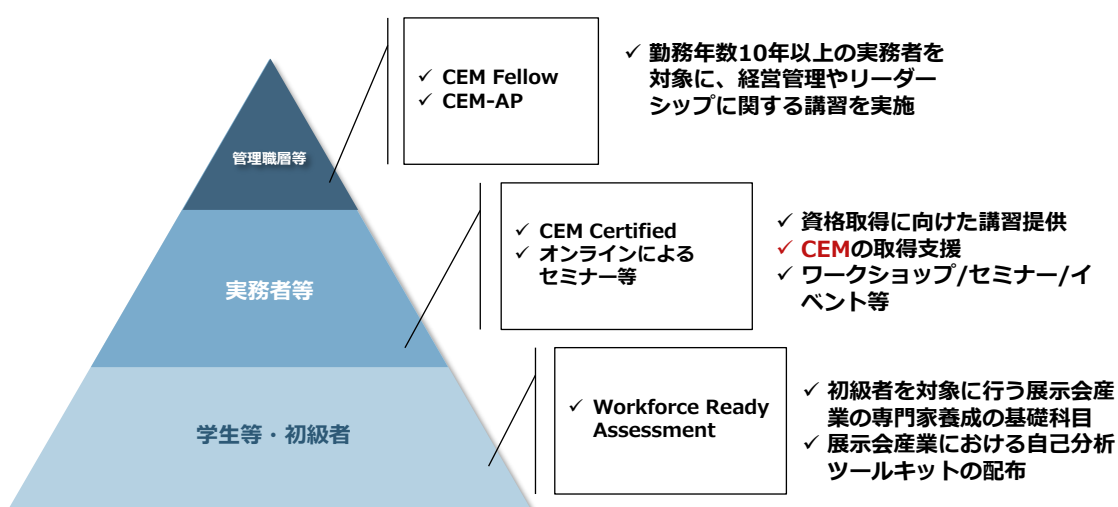
- Event Marketing (EM) Module
- Event Operations (EO) Module
- Exhibition and Event Sales (EES) Module
- Strategic Planning and Management (SPM) Module
- Floor Plan Development (FPD) Module
- Facility and Site Selection (FSS) Module
- Security, Risk and Crisis Management (SRCM) Module
- Selecting Service Contractors (SSC) Module
- Conference and Meeting Management (CMM) Module

IAEE が設立している IAEE Certification Journey では、CME の資格を核として、初級者、実務者、管理職層向けといった、人材の勤務年数に応じた育成プログラムが構成されている。初級者は Workforce Ready Assessment を受講し、展示会産業の概観を学ぶとともに、自身の強みや性格を分析し、自身のキャリア構築に活かす取組としている。

実務者向けの取組として CME Certified が該当する。展示会産業に 3~5 年間従事した実務者向けに展示会産業における実践的・理論的な学びを深める場となっている。

管理職層向けのプログラムとしては、CEM-AP や CEM Fellow が該当する。特に CEM-AP は CEM 資格取得者の中でも勤務年数 10 年以上の実務者を対象に、経営管理やリーダーシップに関する講習を実施し、展示会産業のリーダー育成を目指している。CEM Fellow は CEM-AP 資格取得者の中でも 20 年以上の勤務年数を有し、展示会産業の教育者としての活躍が期待されている。

図表 IAEE が提供している人材育成プログラムの概要



※IAEEでは展示会産業に従事する61歳以上の方を対象に、CEM Emeritusの資格を制定しているが、勤務経験・スキル等は問われないことから、3階層から除外している。

3) 国内関連団体・事業者へのヒアリング結果

本調査では文献調査に加え、国内の MICE 関連団体や事業者へのヒアリングを実施し、我が国の MICE 関連団体や事業者が実施している教育プログラムに対する意見や課題等を把握した。ヒアリング調査の対象は下記の通り。

図表 ヒアリング対象と主な論点

ヒアリング対象の属性	主な論点
主に M・I・C を対象とした 業界団体	✓これまでに提供してきた教育プログラムの概要 (対象者、テーマ、参加者からの評価等)
主に C を対象にした 業界団体	✓業界における人材育成に関する課題 ✓海外と比較した際の教育プログラムの差異
主に E を対象にした 業界団体	✓国際認証制度等を取得する意義 ✓政府や自治体が提供している教育プログラムについて
グローバルホテルチェーン	✓ホテル業界で提供されている人材育成プログラムやホテルチェーンの中で提供されているプログラム ✓日本の政府関連機関、地方自治体、業界団体等の提供しているプログラムに関するご意見

次頁にヒアリング調査で把握した我が国の MICE 関連人材育成プログラムに対する主な意見や要望を記載する。

図表 ヒアリング結果の概要

論点	概要
<p>これまでに提供されてきた教育プログラムとその問題点等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ これまで業界で提供されてきた教育プログラムの多くは、その時々で話題のトピックや国内外の最新トレンド等をセミナー形式で実施するものである ✓ 最新動向を把握することや新しい知識を身に付ける目的では一定の効果はあると考えられる ✓ しかし受講者の対象やそのセミナーやプログラムで、参加者にどのような知識を得て欲しいのかが明確になっていない ✓ そのためプログラム提供者も参加者も、目的意識が曖昧なまま進められているケースが多い
<p>各業界における人材育成に関する課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 業界内で現在不足しているスキルや強化すべきスキル等が明確になっていない ✓ さらに言えば、そもそも業界を通じて求められる体系的なスキル等を把握できていない状況にある ✓ そのため何かプログラムを実施するにしても、その時々最新のトレンドをインプットする等のセミナーや、新入社員や若手社員向けに業界の基礎を伝えるセミナー等が大半になってしまう ✓ 各業界団体ともに各企業で現場を持っている担当者が空いた時間で対応している状況なため、十分なマンパワーを割けず、しっかりと検討が出来ていないことも問題である ✓ 海外の例のように、業界のトレンドだけでなく、マーケティング、プロモーション、財務、人材等の多様な視点で教育プログラムを提供しようにも対応できる人材に限られ、教育する側の人材リソースが不十分である ✓ またそもそも業界の認知度が低いことも大きな課題である。業界の教育のあり方を検討することも重要であるが、認知度を上げ多様な人材が集まる仕組みも考える必要がある

論点	概要
国際認証制度を取得する意義や意味	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 国際認証制度を取得するメリットの多くは、海外の主催者や事業者とやり取りを行う際に出る ✓ 資格を持っていることで必要最低限の知識を有していることの証明となり、プロフェッショナルとして認知してもらえる ✓ 直ちに受注につながるわけではないものの、信頼の獲得には一定の効果がある ✓ しかし国内のマーケットだけを見ている事業者や地域にとっては、資格の取得はあまり効果的に働かないと感じる ✓ そのため、資格取得の必要性は国際 MICE を誘致することを前提とした際に必要になる ✓ ただし、資格取得そのものの意味以外にも、資格を取るプロセスで多くのことを学ぶことができる点は良いと考えられる ✓ 上述の通り、我が国では業界内に体系化されたスキルが存在しないため、資格取得を通じて海外で考えられている業界に求められるスキルの全体像を知ることができる ✓ また普段の業務では関係の薄い業務や役割についても理解するきっかけとなり、より高い視点で自身の業務や業界を見るきっかけとなる
今後必要な取組み等	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 海外で提供されているプログラムや、グローバルな業界団体が発行している認証制度のプログラムとそ中で求めているスキルを理解することで、我が国においても必要なスキルセットを明確にすることが必要である ✓ ただし全て海外のものを利用すればいいとも限らない。日本独自の商習慣や文化もあるので、海外のものを参考にしながら、各業界団体が独自に必要な要素を検討しアレンジしていくことが必要である

3. 海外の高等教育機関における MICE 関連カリキュラム

1) 国内の高等教育機関における MICE 関連カリキュラムの現状

日本では、大学や大学院等の高等教育機関を中心に MICE 関連の講座や授業が実施されている。例えば、文部科学省「高度専門職業人養成機能強化促進委員事業」の枠組みのもと、関西学院大学によって「MICE・地方観光人材の育成プログラム」が提供されている。また、観光庁「産学連携による観光産業の中核人材育成・強化事業」の枠組みに基づき、横浜商科大学では「MICE ビジネス中核人材育成講座」が実施されている¹。その他、東洋大学や立教大学では、地域資源開発、ホスピタリティ・マネジメントに関する課目が創設されて、授業の中で、MICE が集中的に取り上げられるといった内容の教育となっている。

一方、現在日本の高等教育機関で提供されている MICE 人材育成のプログラムは、上記のとおり政府のプログラムの中で実施されているものや、観光等を取り扱う学部・学科の中で部分的に提供されているにとどまる。そのため、受講者・学生に対し体系的に MICE 教育を提供できる教育機関は非常に限られており、人材の裾野拡大や MICE 業界の認知度向上が進みにくい状況となっている。

以下に、現在日本の高等教育機関で実施されている主な MICE 人材育成プログラムを整理する。

図表 日本の高等教育機関で実施されている MICE 人材育成プログラム

大学	プログラム名	概要	プログラムの特徴
横浜商科大学	MICE ビジネス中核人材育成講座	<ul style="list-style-type: none">観光庁「産学連携による観光産業の中核人材育成・強化事業」により提供されている全 10 回・6 日間のカリキュラムM および I の企画・開催・運営能力習得にフォーカスを当て実施	<ul style="list-style-type: none">MICE 関連産業・ビジネスに従事している人が対象MICE 関連業務に携わる方々の人的ネットワークづくりが目的

¹ 観光庁の「産学連携による観光産業の中核人材育成・強化事業」は、地域の観光産業の強化・発展を推し進める中核人材を育成・強化するため、平成 30 年度は全国 10 大学で講座を開講し、地域の観光産業の経営力・生産性向上を目指す取り組みとなっている。これまで、小樽商科大学、大分大学、和歌山大学、青森大学、鹿児島大学、東洋大学、明海大学、神戸山手大学、信州大学、横浜商科大学にて講座が開講されている。

大学	プログラム名	概要	プログラムの特徴
関西学院大学	MICE・地方観光人材の育成プログラム	<ul style="list-style-type: none"> 文部科学省「高度専門職業人養成機能強化促進委託事業」により提供されているカリキュラム 大学、神戸市、旅行会社、ホテル等が協力して実施 全13科目からコースを選択し12単位以上の取得とインターン参加が求められる 	<ul style="list-style-type: none"> 関西学院大学 MBA プログラムに合流する形で経営理論等を受講 本プログラムの独自課目の講師陣は、実務・現場経験者が中心となっている
東洋大学	地域マーケティング論	<ul style="list-style-type: none"> 日本コンベンションサービスによる寄附講座 国際観光学部の2年生を対象に全15回の講義を実施 	<ul style="list-style-type: none"> 観光ビジネス、人口減少、マーケティング理論、地域資源開発の事例研究、デジタル技術等の総花的な内容となっている 実務家の目線で講義やワークショップを実施
立教大学	ホスピタリティ・マネジメント講座	<ul style="list-style-type: none"> ホテルや旅館のサービス、マーケティング、経営戦略、RM等を学べる講座 その中で「MICEの本質と実態」というテーマでMICEについて取扱う枠がある 	<ul style="list-style-type: none"> 宿泊を中心とするホスピタリティ産業を代表する経営陣を中心とした講師陣。 理論を学ぶと同時に、都内のホテルの現場を見学する実践の場が設けられている
	コンベンション産業論	<ul style="list-style-type: none"> 観光学部にて全14回の講義を実施 MICE開催の意義、開催地に求められる要件、開催地・施設のマーケティングのあり方等の理解が目的 	<ul style="list-style-type: none"> MICE産業の概観・開催地マーケティング等の理論の習得に加え、グループワークを通じた開催地プログラムの提案やコンベンション施設の視察等実践的な取組が実施されている
	MICEの理論と実践	<ul style="list-style-type: none"> 日本コンベンションサービスによる寄附講座 3~4年生を対象に全14回にわたり講義を実施 	<ul style="list-style-type: none"> インバウンドと地域再生・観光振興の視点からMICEの重要性や機能・効果を解説 理論と実践の行き来を通して、実際のビジネスに応用する力を養成する

(1) 横浜商科大学の事例

横浜商科大学は、MICE 全般を教育プログラムに含む大学がわずかであるという社会的背景に鑑み、2014 年から産業界と連携して、MICE 関連領域における教育プログラムの開発と社会人を対象とした講座の実施に取り組んでいる。2015 年 4 月から貿易・観光学科を改組し、「観光マネジメント学科」を新設し、国際文化交流に関する知識習得に向けて「MICE 論」という授業が開講されている。その他、文部科学省の 2015 年度事業として「観光フロンティアとしてのインバウンド観光・マイスビジネス人材育成」事業や、同省 2016・2017 年度「地域インバウンド対応のための観光ビジネスフロンティア人材育成」事業を通じて産業界と連携して単発型の講座を開講する等している。

2018 年には、観光庁事業「産学連携による観光産業の中核人材育成・強化事業」に採択され、MICE 人材育成プログラム「MICE ビジネス中核人材育成講座」を実施している。観光庁事業採択の背景として、文部科学省のスーパー・プロフェッショナル・ハイスクールとして指定を受けた横浜商業高校（商業科）が MICE 教育を導入したことで、人材の裾の拡大に繋がったという過去の実績を踏まえ、MICE 教育の導入が促進の動きが見られたことが挙げられる²。

観光庁事業「産学連携による観光産業の中核人材育成・強化事業」では、全 10 回・6 日間の MICE ビジネス中核人材育成講座を 10 月より約 2 か月間実施している。同講座は、現在 MICE ビジネスに関わっている、また観光関連産業において今後 MICE ビジネスに係ることが想定・期待されるビジネスパーソン（20 代後半～40 代前半の若手・中堅層）を対象としている。同講座の内容には、業界関係者による講演や、受講生同士のグループワークによるプレゼン発表等が含まれている。

² 横浜市では、第 2 期横浜市教育振興基本計画の施策のもとで、グローバル人材の育成を推進。文部科学省のスーパーグローバルハイスクール指定を横浜商業高校が獲得し、高大連携・企業連携等の取り組みを通じ、観光・MICE で横浜を創生できる人材育成を実施している。

図表 横浜商科大学による MICE 人材育成の取組

横浜商科大学「MICE ビジネス中核人材育成講座」の概要

【事業概要（現状・課題、プログラムの目的・コンセプト）】

- 観光立国の実現のためには、「消費単価の向上」等の課題解決が不可欠である。この点、MICE は有効である
- 相対的に生産性が低い観光産業の生産性をあげるには、「B to B」ビジネスへの取組が重要であり、この点、MICE においても比較的ノウハウの蓄積が遅れている「M・I」の対応強化を急ぐ必要がある
- 本講座では、こうした問題意識のもと、MICE ビジネスに関わる中核人材の育成を図るとともに、MICE ビジネス現場における「M」および「I」の振興に関わる課題解決力の向上を目指す

対象者

【対象者】

- 現在、MICE ビジネスに関わっている、また観光関連産業において今後 MICE ビジネスに関わることが想定・期待されるビジネスパーソン
- 上記分野の「若手」「中堅層」（20代後半～40代前半）

【人数】

- 30人

【実施場所】

- 基本：横浜市内の交通アクセス利便性が高いホテル等
- 現地視察および実体験：ユニークベニュー（企業博物館、文化観光施設、2か所で実施）

【開講時期・回数等】

- 10月～11月
- 全10回・6日間

カリキュラム内容

【カリキュラム概要】

- ① MICE 産業及びビジネスの特性と事業構造の理解
- ② MICE ビジネスに求められる人材像（資質・能力・資格等）
- ③ 観光産業の生産性に関わる基礎的理解
- ④ ユニークベニューにおける「M」「I」開催の実体験をとおした「M」「I」の企画提案
- ⑤ CVB や会議展示施設・旅行会社・企業 MP 等からみた「M」「I」の課題とその対応等

【習得できる能力、期待される効果】

- ① MICE ビジネスの現場に自らが身を置いた時に発揮できる自己能力の創造・開発力
- ② MICE 現場、とりわけ地域及び国レベルでの経済効果が高く、わが国企業の国際的競争力および輸出競争力の強化につながる可能性が高い「M」および「I」の企画・開催・運営に必要とされる実践力

【特色のある講義や研修、教育方法など】

- ・ 「座学」にとどまらず、ワークショップや個人単位のプレゼンテーションの組み合わせ
- ・ ユニークベニューの見学およびユニークベニューでのミーティングの実体験
- ・ 先進他都市・地域視察&ヒアリング、講座講師等も交えた「MICE 事業研究委員会」における研究成果も取り入れた「小冊子」（A5 版）、2,000 部制作、受講者はじめ全国 MICE 関係機関に配布

【社会人が受講しやすい工夫】

- ① 受講が想定されるビジネスパーソンの勤務体系に即した平日午後開催

実施体制スキーム

- ② 横浜商科大学 +
MICE 人材育成協議会（日本政府、（一社）日本コンベンション協会、（公財）横浜観光コンベンション・ビューロー、横浜市内主要ホテル構成団体、パシフィコ横浜 等）

出所）横浜商科大学資料をもとに作成

図表 MICE 講座の構成

No	講義タイトル	概要	受講方法
1	<p>①観光産業の中核人材育成と国の政策</p> <p>②MICE 産業及びビジネスの特性と事業構造</p> <p>③わが国および海外先進国における MICE の現状と振興に関わる政策</p> <p>④横浜市における MICE の現状と振興に関わる政策</p>	<p>①観光産業の中核人材育成に関わる国の政策</p> <p>②MICE 産業・ビジネスの特性、インバウンドと MICE</p> <p>③わが国の MICE の現状と課題、MICE 振興政策等</p> <p>④横浜市における国際的な MICE 開催・誘致の現状と課題、MICE 振興政策等</p>	<p>座学 (+質疑)</p> <p>①13 : 30～</p> <p>②14 : 10～</p> <p>③15 : 00～</p> <p>④16 : 00～</p>
2	<p>①MICE ビジネスの流れ</p> <p>②MICE ビジネスと求められる人材</p> <p>③観光産業の生産性と MICE 産業</p>	<p>①MICE の企画・誘致・開催の流れ</p> <p>②MICE ビジネスの中核プレイヤーに求められる資質・能力・資格等</p> <p>③観光産業の生産性の問題の所在とインバウンド及び MICE</p>	<p>座学 (+質疑)</p> <p>①13 : 30～</p> <p>②14 : 50～</p> <p>③16 : 00～</p>
3	<p>①MICE における CVB の役割と活用法</p> <p>②旅行会社からみた MICE 関連の課題－「M」「I」を中心に</p>	<p>①MICE における CVB の役割、関連事業者からみた CVB 活用方策</p> <p>②旅行会社からみた企業課題ソリューションとしての「M」「I」の企画・実施と課題</p>	<p>座学 (+質疑)</p> <p>①13 : 30～</p> <p>②14 : 50～</p> <p>ワークショップ</p> <p>旅行会社から提起された課題の解決方策</p> <p>16 : 00 ～</p>
4	<p>①会議展示施設からみた MICE 関連の課題－「M」「I」を中心に</p> <p>②ユニークベニューの活用とインセンティブツアー企画</p>	<p>①会議展示施設からみた MICE 関連の課題－国際レベルの「M」「I」を中心に</p> <p>②ユニークベニューの活用に関わる課題とインセンティブツアーの要諦</p>	<p>施設視察</p> <p>13 : 00～</p> <p>座学 (+質疑)</p> <p>①14 : 10～</p> <p>②15 : 10～</p> <p>ワークショップ & プレゼンテーション</p> <p>16 : 00～</p>

No	講義タイトル	概要	受講方法
5	「M」「I」主催者における「M」「I」企画・開催に関わる現状と課題、関連組織への要望	国際的な「M」「I」主催者からみた「M」「I」企画・開催の現状と今後及び関連事業者への要望	座学 (+質疑) ①13:00～ 施設視察 14:30～ 座学 (+質疑) ②15:50～
6	「M」または「I」企画 プレゼンテーション	「事前課題」に対応した MICE ビジネスソリューション方策の発表	プレゼンテーション 総評

出所) 横浜商科大学資料をもとに作成

横浜商科大学で開講されている「産学連携による観光産業の中核人材育成・強化事業」は、観光産業における政策、MICEの事業構造から、個別催事の現状と課題について、MICEに知見を有する事業者が講演を行う等、幅広い分野を習得することのできる機会となっている。また、プログラム後半ではビジネス課題と解決策に関するプレゼンテーションを行う等、実装的なプログラムも含まれている。一方、約2か月という短期間での実施により、MICE産業・各催事の概要に関する講習となっている可能性が高い。

(2) 関西学院大学の事例

関西学院大学では、MICE を効率的に運営していくための、交通・宿泊等に加え、催事の企画・運営を担う人材育成の必要性が高まっている背景に鑑み、文部科学省平成 29 年度「高度専門職業人養成機能強化促進委託事業」に採択され、「インバウンド需要に対応した MICE・地方観光人材の育成プログラムの企画」を実施している³。

同企画では、ホテルや地方観光のマネジメントに携わる社会人に対し、将来のビジネスの中核を担う人材育成を図るプログラムの組成を目指している。プログラムは、関西学院大学大学院経営戦略研究科（ビジネススクール）の課目と新設の授業を織り交ぜる形での提供が予定されており、講座の受講に加えて神戸ポートピアホテルでのインターンシップを実施することとしている。

プログラムでは、ビジネススクールが提供している 4 つの公開講座を基礎科目として設定し、発展課目は既にビジネススクールで設置されている課目を中心にサービスの提供やマーケティングに関する課目・組織管理・インターネット上を活用したビジネス展開について習得する。

特徴として、ホテル・マネジメントでは、ホテルの計数管理に加えて、MICE に関する実践的なケース「ポートピアホテルの事例」や海外事例を扱い、実装的な学びに活かしている。

インターンシップは、神戸ポートピアホテルにおいて 7 日間とされている。

³ 文部科学省では、成長分野や産業界のニーズが高い分野（農業、食、スポーツ、AI、IoT・ビッグデータ、ホスピタリティ、知財、医療、コンテンツ、環境エネルギー、ファッション等）に関する経営系専門職大学院の教育プログラムの開発に対する支援を実施している。教育プログラムの開発とは、正規課程における課目の開発のほか、非正規課程（履修証明プログラム等）における課目の全部または一部の開発でも可能とし、事業を実施する際、産業界、職能団体、地方公共団体、専門職大学院修了生等）の参画を促している。

図表 関西学院大学「インバウンド需要に対応した MICE・地方観光人材の育成プログラム」のカリキュラム

区分	課目	単位	備考
基礎科目	経営戦略	1	本学経営戦略研究科で開講している「経営戦略講座」の受講者と一緒に合流する形で受講
	マーケティング	1	
	人的資源とキャリア開発	1	
	会計・財務諸表	1	
発展科目	サービス・マネジメント	2	本プログラムにて開発する新設科目
	サービス・マーケティング	2	本学経営戦略研究科のビジネススクールで開講している正規科目（MBA取得対象）に合流する形で受講
	組織管理	2	
	管理会計	2	
	情報システム	2	
先端科目	ソーシャルマネジメント	2	「地域医療経営人材育成プログラム」で開発した科目
	ホテル・マネジメント	2	本プログラムにて開発する新設科目
	地域観光	2	
	インターンシップ	2	

本プログラムにて開発する新設課目として、サービス・マネジメント、ホテル・マネジメント、地域観光、インターンシップの4課目（合計8単位）が挙げられる。本プログラムでは、ビジネススクール教授やホテル関連企業取締役等が教鞭を執り、集中講義形式で実施を行う。

例えば、サービス・マネジメントの課目では、サービス提供組織の管理、サービス提供組織の成長、イノベーションの創出等が取り扱われる。ホテル・マネジメントの課目では、ホテルに関する基本的な管理技能を学び、その上でコンベンションに関する理論的、実践的内容を学ぶ内容となっている。地域観光の課目では、地域観光を理解し実践するための基盤となる理論を学びながら、先端的事例を用いた講義・チーム学習・プレゼンテーションなどを通じ、地方観光を担うための実践的な知識を身につけることを目的としている。インターンシップの課目では、ホテルのマネジメント業務及びMICEに関わる業務の実際を学び、そのプロセスから結果までを理解することが目的に掲げられている⁴。

⁴ 「高度専門職業人養成機能強化促進委託事業」委託業務成果報告書によると、インターンシップは当初4週間にわたって実施の予定であったが、周知期間が短かったことに加え、社会人には期間が長すぎたこともあり、受講者が集まらなかったことが指摘されている。それにより、インターンシップの受講者は、ホテルに就職が決まっている大学生1名で、実施期間は3月に3日間となっている。

図表 関西学院大学における新設科目の概要

分類	科目	概要
発展課目	サービス・マネジメント	効率的なサービス提供システムの構築からインターネット上でのイノベーションまで、豊富なケースを取り上げる
先端課目	ホテル・マネジメント	ホテルの計数管理に加えて、MICE に関する実践的なケースとして神戸ポートピアホテルを事例としてとりあげる。併せてインバウンド需要を想定したメディカル・ツーリズムや国際会議の誘致に関して、海外の事例も取り上げる
	地域観光	着地型観光による地域観光資源の活性化に関して海外の地域観光の事例を含めてケースを作成し、インバウンド需要の取り込みによる地方での観光実践を取り上げる予定。地方における観光需要を考えると定期的な需要が見込める MICE の役割についても取り上げる
	インターンシップ	神戸ポートピアホテルにおいて MICE に関する実践的なカリキュラム。週 1 回を 4 週間の期間での実施を予定

ホテル・マネジメントの課目では、サービス・マネジメントの基本的な考え方を理解した上で、MICE 市場の分析から運営についてを学ぶ体系となっている。授業では、現代のホテル経営の問題から、計数管理・組織管理・経営戦略について講習を受けた上で、MICE に係るケースを学ぶ構成となっている。各回の講習内容は以下のとおりとなっている。

図表 ホテル・マネジメントの各回ごとの授業内容

講習回数	テーマ	概要
第1回	現代のホテル経営の問題	イントロダクション(多様化する現代のホテルビジネス経営について)
第2回	計数管理	ホテル特有の管理会計(ホテルユニフォーム会計)制度について、ホテルの財務諸表分析について
第3回	計数管理	ホテルの部門別会計について※部門別会計、原価計算、部門評価
第4回	組織管理	ホテルの労務管理、人事戦略について
第5回	経営戦略	ホテルの経営戦略について メディカルコンベンションを基軸にした経営品質向上への取組について
第6回	経営戦略	【MICE】を核にした官民連携による地域創生事例「ケース：神戸国際会議場・神戸国際展示場の官民連携による指定管理事業の事例」
第7回	経営戦略	地域資源を活用した大都市における観光活性化戦略「ケース：神戸フィルムオフィスによる地域創生戦略について」

関西学院大学では、ビジネススクールで既に関講されている授業に併設する形でMICE人材を育成するカリキュラムが組成されている。基礎科目、発展課目、先端課目の3つの課目分類がなされており、受講者は各課目分類の授業を履修することとなっている。

特に先端課目に分類されているホテル・マネジメントは、発展課目であるサービス・マネジメントに関する授業を履修していないと履修することが出来ない授業となっている。

関西学院大学のプログラム内容は、基礎科目、発展課目、先端課目という構成となっており、従前の総花的な講座提供の枠組みとは大きく異なる体系的なプログラムとなっていることから、国内でも先進的な取組と考えられる。一方、MICE人材の育成という観点に焦点を当てると、ホテル・マネジメントの授業ではMICEについて学ぶのは後半となっており、前半で提供されているホテルの管理会計等の授業とは異なる内容となっている等、各催事に特化した人材育成は行われていない可能性がある。今後、課目の拡大とMICEへの特化が必要になると考えられる。

2) 海外の高等教育機関における MICE 関連カリキュラムの現状

(1) アメリカにおける高等教育機関の MICE 関連カリキュラム

アメリカの4年制大学では、国内外の MICE 産業の成長にあわせ、M、I、C、Ex、Ev 各催事の企画・運営・経営管理・戦略等を包括的、体系的に教育する課目・プログラムが整備されている。

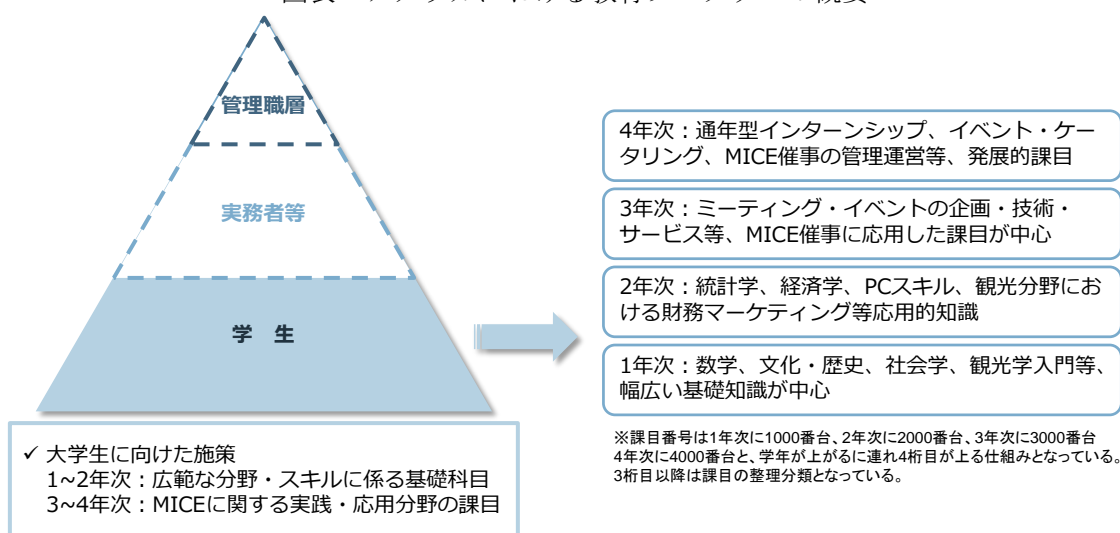
1年次～2年次では、広範な分野・スキルを習得する基礎課目が中心となっており、3年次～4年次では、MICE、ホスピタリティ・マネジメント等の応用分野の課目が中心となっている。また、3年次～4年次の学生を対象に、通年型のインターンシップが単位に含まれる等、高学年になるにつれ、実践的な教育に焦点が当てられている。

アメリカの高等教育機関における MICE 人材育成では、特に1年次～2年次で習得する基礎科目が重要と考えられている。基礎科目の習得程度に応じ、3年次～4年次に習得する課目への応用性が増し、高い学習効果が得られると指摘されている。

アメリカが、基礎科目を重視する背景は、近年様々な国・地域で、多様な催事が開催されており、MICE 人材への「応用力」が期待されているという点が指摘される。

アメリカでは、学生向けの MICE 人材育成プログラムの中でも、基礎～応用まで細分化がなされ、専門性の高い人材輩出に貢献していると考えられる。

図表 アメリカにおける教育プログラムの概要



近年、アメリカの一部の大学を中心に、MICE の人材育成プログラムに焦点が当てられ、体系的な教育プログラムが組成されている。世界的に MICE の重要性が高まり、様々な国・地域で、多様な催事が開催されるようになった昨今、アメリカの MICE 産業では、いかに催事の付加価値を高め、円滑・効率的に事業を運営できるかという点に注目されるようになっている。

特にアメリカでは、基礎知識から専門スキルまで習得した MICE 人材のニーズが高まっており、MICE 人材育成に関する包括的なプログラムが設立されるようになった。

アメリカで、MICE 人材育成に最も注力している大学の一つであるセントラルフロリダ大学では、**Rosen College of Hospitality Management** というホスピタリティ・マネジメントを扱う学部が中心となって、MICE 教育を実施している。4年間の学生生活の中で、MICE に関する基礎的な教育から実務・応用分野まで、包括的な課目が設立され、ホスピタリティ・マネジメントの分野で世界トップクラスの教育を行っている。本調査では、主にセントラルフロリダ大学の取組に焦点を当て、アメリカの主な大学における MICE 人材育成プログラムの概要を整理する。

なお、アメリカでは大学によって注力する学問領域は異なっており、いわゆる総合大学のランキングとしては上位に位置付けられなくとも、特定の学問領域においては全米で有数の優良校と認知される学部は多く存在する。MICE 関連の教育では、セントラルフロリダ大学、ネバダ州立大学ラスベガス校、ニューヨーク州立大学デルハイ校が優良な課目・プログラムを擁しており、アメリカ国内では優良なプログラムとされている⁵。

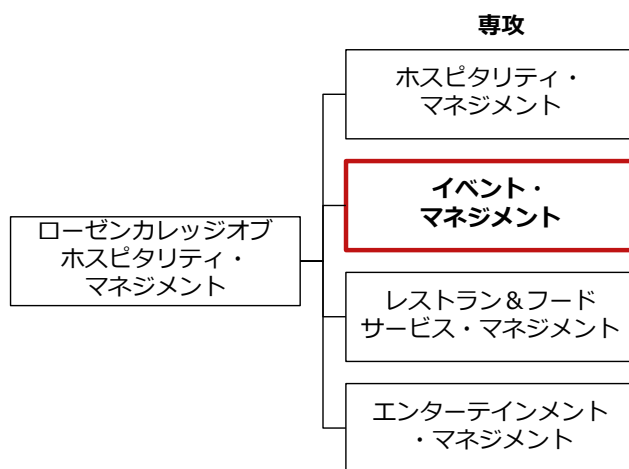
⁵セントラルフロリダ大学は私立大学、ニューヨーク州立大学デルハイ校、ネバダ州立大学ラスベガス校は州立大学となっている。なお、アメリカの大学は、連邦政府や産業界から経営や教育方針について介入を受けることはなく、政府予算や地場産業の高まり・衰退によって教育プログラムが影響を受ける場合は少ない。ただし、州立大学の場合は、州政府予算が財源となっており、州の財政状況に応じて予算の制約が生じる場合もあるとされている。

① セントラルフロリダ大学の事例

図表 セントラルフロリダ大学の概要

項目	概要
名称	セントラルフロリダ大学 ローゼンカレッジオブホスピタリティ・マネジメント University of Central Florida, Rosen College of Hospitality Management
立地	フロリダ州オーランド
設立年	2004年（セントラルフロリダ大学の設立年は1963年）
学生数	約3,500人 （セントラルフロリダ大学全体では66,183人 ※2017年秋時点）
専攻科目	【学士号】 ✓ レストラン&フードサービスマネジメント ✓ ホスピタリティ・マネジメント ✓ イベント・マネジメント ✓ エンターテインメントマネジメント 【修士号】 ✓ ホスピタリティ&ツーリズムマネジメント 【博士号】 ✓ ホスピタリティ・マネジメント
教授	教授：72名 准教授：35名 一般スタッフ：64名
卒業後のキャリア	就職率：97%（Rosen College of Hospitality Management） ※卒業生の多くがホテル、コンベンション・ビューロー、DMO、PCO、カジノ事業者等、MICE 催事に関わる組織に従事しており、人材の質の高さについて雇用者から高い評価を得ている

図表 セントラルフロリダ大学
ローゼンカレッジオブホスピタリティ・マネジメントの専攻の体系



なお2019年夏から、シニアリビング（高齢者生活）マネジメントが新設される予定となっている。

<産業との連携>

Rosen College of Hospitality Management では、高学年向けにインターンシップを斡旋している。インターンシップは、大学が公式に単位として認めており、毎週 26 時間の実務をこなすことが義務付けられている。インターンシップの経験が豊富な学生は、大学で学ぶ理論との両輪で、より高い学習効果が生まれる。就職活動の際、即戦力や実戦経験が高く評価されることから、学生からのインターンシップの人気の高い。

セントラルフロリダ大学内外のホテルや、オレンジカウンティコンベンションセンター、Visit Orlando (コンベンション・ビューロー) が立地していることもあり、これらの MICE 関連事業者と連携した取組が行われている。

<国際的な連携>

Rosen College of Hospitality Management では、世界 9 カ国・地域の 16 校と交換留学協定を締結している。

日本の提携校は、立教大学 (観光学部)、山口大学 (経済学部観光政策学科) となっており、日米の学生の相互交流を図っている。ただし、日本の大学では英語で行われる授業数が限られており、アメリカの学生を派遣するにはハードルが高いと指摘されている。

<ホスピタリティ・マネジメントに関する修士号>

現在、観光分野における経営修士号のニーズも高くなってきており、Rosen College of Hospitality Management では、修士の課目も創設している。アメリカでは修士号取得により、キャリアアップの機会が豊富となっており、近年観光分野の事業者からのニーズも高いとされている。

中でも最も人気の高い課目は、ホスピタリティ分野におけるデータ分析・財務分析であると指摘されている。近年、観光分野ではイールドマネジメントを重視する事業者が増加していることから、これらのスキルの習得ニーズが高い。

将来的には、MICE に特化した修士号も登場する可能性があるとの指摘も存在する。

<課題・今後の展望>

近年では、ホスピタリティ・マネジメントは人気の課目となっており、より広範な領域を扱うプログラムが登場している。例えば、音楽学部・演劇学部等と連携し、エンターテインメントマネジメント等、新たな履修課目を創設した。このエンターテインメントマネジメントでは、主にイベント・マネジメントに必要なスキルを応用し、コンサートやフェスティバル等の管理人材育成にも力を入れている。オンラインによる受講と対面による受講が選択可能となっており、これにより、受験生の数も増加しているとされる。

図表 MICE 人材育成に関する主な履修科目

年次	学習課目	主な授業（抜粋）	
1 年次	数学、文化・歴史、社会学、観光学入門等、幅広い基礎知識が中心	✓Cultural & Historical Foundations	✓世界史や文化の基礎
		✓Mathematical Foundations	✓代数・数学基礎
		✓Social Foundations	✓政治・経済・法律等基礎
		✓Introduction to the Hospitality and Tourism Industry	✓ホテル、レストラン、観光業界について、その歴史、構造、そして運営方法から学ぶ基礎、入門授業
2 年次	統計学、経済学、PCスキル、観光分野における財務マーケティング等応用的知識	✓Statistical Methods I ✓Computer Fundamentals for Business	✓統計学基礎やビジネスシーンにおけるコンピューター（Excel や Powerpoint 等）
		✓Principles of Macroeconomics ✓Principles of Microeconomics	✓マクロ経済学基礎 ✓ミクロ経済学基礎
		✓Hospitality Industry Financial Accounting	✓ホテル、レストラン、クラブ等で使われる、ホスピタリティに特化した財務会計の基礎知識
		✓Hospitality and Tourism Marketing	✓ホスピタリティ、観光業界に特化したマーケティングの知識。マーケティングの企画、そして戦略的マーケティングに重点を置いた課目
		✓The Event Industry	✓ミーティング、コンベンション、特別イベント、展示会の基礎知識を身につける。組織の役割やイベントビジネスに関わる人々によってイベント業界がどのようにして成り立っているのかを学ぶ

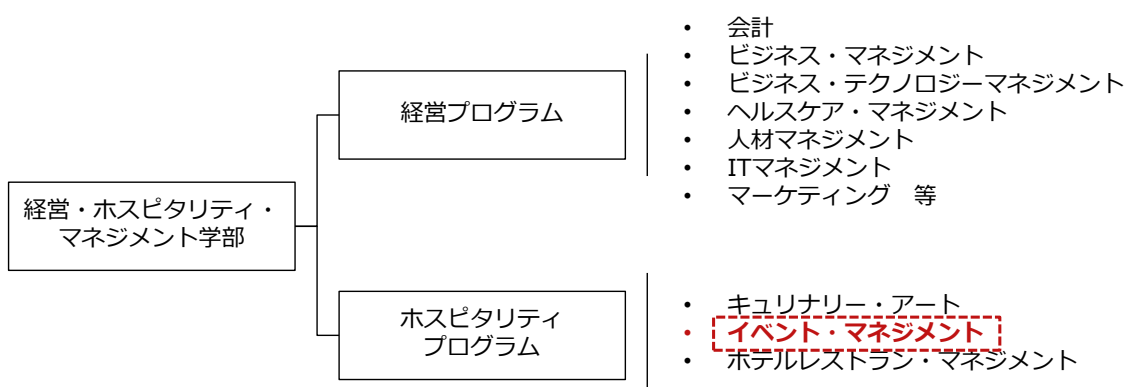
年次	学習課目	主な授業（抜粋）	
3年次	業界スタンダードの管理会計基礎、ミーティング・イベントの企画・技術・サービス等、MICE 催事に応用した課目	✓Hospitality Industry Managerial Accounting	✓観光分野に特化した会計システムを使用し、観光業界における、プレゼンテーション、説明、内部と外部からの影響の分析方法に関して学習する課目
		✓Guest Services Management I	✓ホスピタリティ業界における、お客様の目線に沿ったゲストサービスを提供するための基本原理
		✓Event Promotion	✓イベントのスポンサー、出席者、展示者等へ向けたイベントのプロモーション、宣伝、促進活動
		✓Event Services	✓イベントの成功のために必要不可欠なサービスの提供とその管理について、供給側の視点等
		✓Event Sales	✓提案書、企画書、契約書、戦略的な交渉術や営業術等を含めた、イベントを売り込む力、セールス力を学習する課目
		✓Event Technology	✓作業の簡易化、人々の作業効率向上のため、テクノロジー/技術をイベント業界に取り入れる方法について学ぶ。それぞれのイベントの目的、種類、企画方法に適したテクノロジー/技術について学習する課目。
4年次	通年型インターンシップ、イベント・ケータリング、MICE 催事の管理運営等、発展的課目	✓Internship	✓256 時間のホスピタリティ業界における職務経験
		✓Event Management	✓イベントの利害関係者（消費者、取引先、従業員、債権者、投資家 等）の需要や期待に沿ったイベントの企画、開発、評価方法について学ぶ。事例研究を取り入れ、最低 20 時間のイベント業界でのボランティア

年次	学習課目	主な授業（抜粋）	
			活動が義務付けられている。(教授によるボランティア活動時間の認定も必須)
		✓Strategic Event Design	✓需要の調査からイベント後の評価まで、実際のイベントの企画過程について学習する課目
		✓Exhibit and Trade Show Operations	✓展示会、トレードショーの運営方法について詳しく学ぶ。展示会とトレードショーに関連した需要と供給の両方に重点を置いた課目
		✓International Events	✓米国外でのイベントや、米国外からの出席者をターゲットとしたイベントを企画する際の企画方法

② ニューヨーク州立大学デルハイ校の事例

ニューヨーク州立大学デルハイ校は、1913年に設立され、現在3,240名の学生が在籍する。5つの学部が存在する中でも主な学部は、経営・ホスピタリティ・マネジメント学部（School of Business and Hospitality Management）であり、ホスピタリティプログラムにおけるイベント・マネジメント課目においてMICE関連の授業が提供されている⁶。

図表 ニューヨーク州立大学デルハイ校の学部・項目



ニューヨーク州立大学デルハイ校のイベント・マネジメント学科では、プログラムの履修により、産業全般に係る包括的な知識の習得、プロフェッショナル・スタンダードの会得、ホスピタリティに関わる領域における技術的な専門性の会得、ビジネスにおけるコミュニケーション能力の醸成、組織の効率化に向けたビジネス管理スキル、イベントのオペレーションに関する応用や定量的分析の習得を目指している。

イベント・マネジメント課目では、4年間（8学期）の卒業要件として124単位の取得が必要となっており、年次が低いほど基礎科目が集中し、年次が上がるにつれて専門性が高まる授業に焦点が当てられる構成となっている。

⁶ イベント・マネジメント課目では、Associate in Applied Science（AAS）と Bachelor of Business Administration（BBA）が存在。それぞれ、AASは短期プログラム、BBAは通常のプログラムとなっている。本調査ではBBAのカリキュラムに焦点を当てている。

図表 イベント・マネジメント学科の履修科目

学期	履修科目
第1学期	<ul style="list-style-type: none"> 一般教養 ライティング <u>イベント・マネジメント入門</u> ホスピタリティ・マネジメント入門等
第2学期	<ul style="list-style-type: none"> 一般教養 <u>環境に優しい、持続可能なミーティングとイベント</u> ホスピタリティと人材マネジメント <u>飲食サービス基礎</u>
第3学期	<ul style="list-style-type: none"> 一般教養 セールス・ネットワーキング入門 ホスピタリティ・マーケティング
第4学期	<ul style="list-style-type: none"> 財務会計 マクロ経済学/ミクロ経済学 バンケット及びイベントオペレーション
第5学期	<ul style="list-style-type: none"> 管理会計 ビジネス・コミュニケーション 組織行動論 ソフトウェア・アプリケーション入門 <u>ミーティング・コンベンション・マネジメント</u> ホスピタリティ法
第6学期	<ul style="list-style-type: none"> 国際ビジネスマネジメント ディベート・議論 イベント・マネジメントにおける倫理と責任 公共政策
第7学期	<ul style="list-style-type: none"> ウェディングおよびソーシャルイベント・マネジメント ホスピタリティに関する戦略マーケティング 統計学 観光産業のための人材育成開発
第8学期	<ul style="list-style-type: none"> <u>上級イベント・マネジメント</u> ホスピタリティ財務管理 ホスピタリティ・マネジメントに関するセミナー

※下線は特に MICE と関連性の深い授業を示している。

1年次（第1学期～第2学期）では、入門や一般教養の授業を履修し、年次が上がるごとにイベント・マネジメントに関する専門性を高める内容となっており、早期に学ぶ基礎的な課目や一般教養の枠組みがあることで、より高度な知識や応用可能性を身につけることができる体系となっている。

ニューヨーク州立大学デルハイ校のイベント・マネジメント課目で提供している MICE に関連する主な授業は、「イベント・マネジメント入門」、「環境に優しい、持続可能なミーティングとイベント」、「飲食サービス基礎」、「ミーティング・コンベンション・マネジメント」、「上級イベント・マネジメント」が挙げられる。

図表 MICE に関連する主な科目

履修学期	授業名	概要
第1学期	イベント・マネジメント入門	イベント・マネジメントの基礎を学ぶ。イベント・マネジメントの定義、モデルとなるイベント、ケーススタディを使用し、理解を深める。企画、開発、ミーティングマネジメント、展示会、イベント、コンベンションについて取り扱う。特に RFP (Request for Proposal - 企画書)、予算、会場選び、スポンサー、ホテルや供給会社との交渉、契約書、マーケティング、会場設営とレジストレーション/参加登録、等の内容に重点を置く 履修後には、イベント・マネジメント専攻学生として、ミーティング、イベント業界の基礎知識を持つことが出来る
第2学期	環境に優しい、持続可能なミーティングとイベント	環境にやさしく、持続可能なミーティング、イベントを行うための基礎知識を身につける。講義を通して、ミーティング、イベント業界における環境問題、環境への配慮の仕方について学ぶ。環境にやさしいイベントの企画のために、持続可能な産業の原理、戦略、標準、基準値等を学ぶ。また、環境にやさしいイベントに重点を置いている団体、組織や、資格等の情報を将来のキャリアの可能性として見出す
第2学期	飲食サービス基礎	基本的な食品の調理方法、食品業界用語、食品の識別、衛生管理、調理器具の使用方法について学ぶ。テーブルサービス、ワインサービスを含んだ、伝統的なフードサービス・マネジメント方法についても触れる また、実技の授業では調理の実践を行いグループプロジェクトやビュッフェイベントの運営を実施する

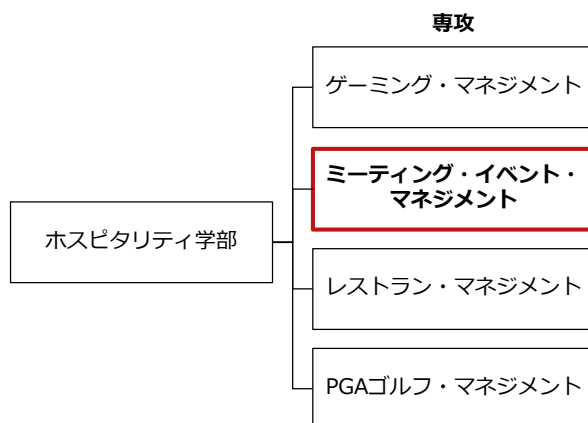
第5学期	ミーティング・ コンベンション・ マネジメント	コンベンションの幅広い市場、個人やグループに所属する人のイベントに対しての需要、効率的なサービスの提供の仕方から、企業のミーティングの企画や、コンベンションマネジメント、そのサービスについて理解を深める。コンベンションサービス マネージャー、イベントプランナーの視点を大切にする
第8学期	上級イベント・ マネジメント	個人、またはグループごとにイベントのコンセプトやテーマ決め、目標設定、企画をデザインし、実際にファンディング/募金イベントを運営する。グループによる企画の場合、企画と運営の手順を決め、個々のタスク/責任を遂行する際に、その手順に沿って責任を果たす。グループ、または個人ごとに、計画表、議事録、予算表、契約書やスポンサー提案書等の書類を作成し、使用する。実際にホスピタリティー業界で活躍しているプロフェッショナルな人材にアドバイス/助言、ガイダンスを求め、イベントの企画と、ファンディング募金イベントについて話し合う

③ ネバダ大学ラスベガス校の事例

ネバダ大学ラスベガス校のホスピタリティ学部（The William F. Harrah College of Hospitality）は、ホスピタリティ分野において世界で最も優良なプログラムを擁している学部とされており、MICE に関わる学科を設置している。公立大学であるネバダ大学ラスベガス校は、約 30,000 名の学生が在籍しており、このうち約 2,500 名がホスピタリティ学部の学生となっている。ホスピタリティ学部のプログラムは 1967 年に設立され、ホテル経営管理に特化した学部（College of Hotel Administration）として授業を提供していた⁷。ラスベガス市に拠点を置くホテル事業者やカジノ事業者とも連携し、授業を提供している。ホスピタリティ学部では、ホスピタリティ・マネジメントの学士号、修士号、MBA、博士号を提供している。

ホスピタリティ学部の学生は、ゲーミング・マネジメント、ミーティング・イベント・マネジメント、レストラン・マネジメント、PGA ゴルフ・マネジメントの 4 種類の専攻領域を選出し、各学生の関心やニーズに合致した授業を履修する⁸。

図表 ネバダ大学ラスベガス校ホスピタリティ学部の専攻の体系



⁷ ネバダ大学ラスベガス校のホスピタリティ学部の起源は、当時、ネバダ大学ラスベガス校がネバダ南大学（Nevada Southern University）と称されていた時期に遡る。1969年に学部としての設立がなされて以降、ホテル経営管理学部を展開していたが、2007年にシーザーズエンターテインメントから250万ドルの寄付を得て、ホスピタリティ・マネジメントを広く扱う学部へと転身した。

⁸ PGA は、Professional Golfers' Association（プロゴルフ協会）の略。

ミーティング・イベント・マネジメントの課目では、学生は、ミーティング、コンベンション、展示会・見本市、特別イベントについて集中的に習得する。催事の実施に係る、会場選定、マーケティング、財務、ロジスティクス等広範に渡る理論的・実践的要素を学ぶカリキュラムとなっている。

図表 ミーティング・イベント・マネジメントの履修授業

授業のタイトル	概要
ホスピタリティ産業入門	ホスピタリティ業界の歴史、発達の仕方を国際経済から学ぶ。また、幅広い職種、雇用の機会についても理解を深める。
飲食サービス 運営 基礎	食品調理の原理について学ぶ。調理技術、調理の際に用いる数学、キッチン/調理場の運営法について学ぶ ⁹ 。
コンベンション産業入門	ミーティング、トレードショー、カンファレンス、インセンティブトラベルを含んだ、コンベンション産業への知識を深める。
ミーティング企画	イベントの目標設定、形式、会場選び、交渉、プログラムのデザイン、ゲストスピーカーの選出、予算の決定、契約書、マーケティング、レジストレーション/イベントへの参加者の登録、会場での設営手順の詳細、評価等における、組織、団体、企業のために働くミーティングプランナーの役割について学ぶ。
特別イベント・マネジメント	特別イベントのマネジメント方法と運営術について学ぶ。イベントにおいて必要不可欠なインフラ設備を供給するサービスについて分析的思考で考える。テーマのデザイン、デコレーション、その他配慮の必要な分野を通して、ミーティング/イベントをクリエイティブな視点、実用的な視点から考える。
フェスティバル & イベント・マネジメント	フェスティバル、イベント・マネジメントにおける、基準設定、技術、運営方法について学ぶ。フェスティバル、イベント・マネジメントの調査、デザイン、プランニング、コーディネート、評価について知識を深める。

⁹ ミーティング・コンベンション・マネジメント専攻の学生は、「コンベンション産業入門」「ミーティング企画」「特別イベント・マネジメント」「フェスティバル&イベント・マネジメント」の授業を履修する必要があるとされている。一方、授業の内容を精査する中で、「ホスピタリティ産業入門」や「飲食サービス運営基礎」は、MICE 事業も見据えた授業構成となっており、関連授業として選出した。

ネバダ大学ラスベガス校ホスピタリティ学部では、入学時点からどの時点でも専攻を決めることが可能とされており、1年次は英語のライティングや数学、経済学、科学、ファインアートや、ホスピタリティ・マネジメントの領域における入門講座を受講する。2年次は、引き続き英語のライティングや、応用数学、ロジック・マネジメント、アメリカ憲法・ネバダ州法や、ホスピタリティ・マネジメントに関するやや発展的な授業を履修する。3年次は、ホスピタリティ・マネジメントや、各専攻の卒業要件となる授業や、哲学、人類学等について授業を履修する。4年次は、多くが自身の専攻の卒業要件となる授業を履修することとなり、同時にインターンシップを通じた現場経験が必須となっている。

このように、ネバダ大学ラスベガス校では、基礎となる講座を1年次～2年次に習得しながら、発展的・専門的な授業を3年次～4年次に履修する構成となっている。

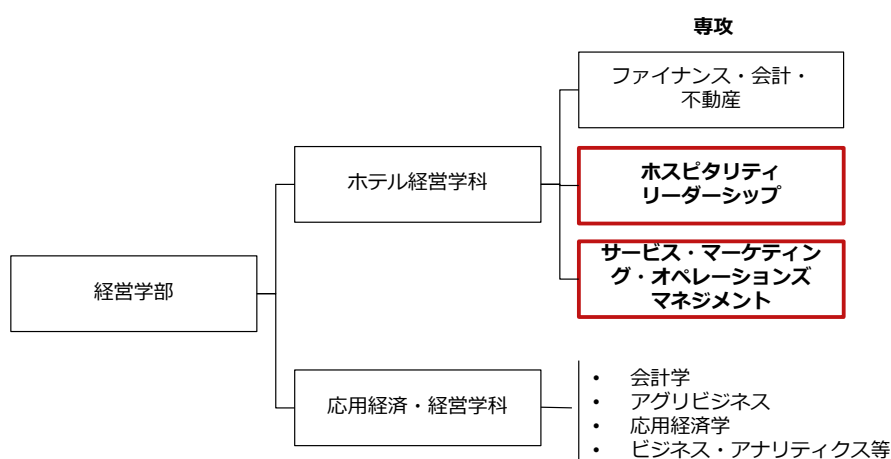
④ コーネル大学の事例

コーネル大学では、経営学部（SC Johnson College of Business）の中にホテル関連のビジネスを専門とするホテル経営学科（School of Hotel Administration）が設置されており、ホスピタリティ・マネジメントの分野で世界的に高い評価を得ている。学科に在籍する学生は約 900 名、修士号・博士号として在籍している学生は約 70 名となっており、コーネル大学の中でも比較的規模の小さい学科となっている。コーネル大学の卒業生約 25 万人に対し、ホテル経営学科卒業生は 1 万 3 千人となっている。

ホテル経営学科では、3 つの専門領域が存在する。専門領域は、「財務、会計、不動産」、「ホスピタリティ・リーダーシップ」、「サービス・マーケティングおよびオペレーション管理」となっている。コーネル大学で教鞭が執られているホスピタリティ・マネジメントの領域は、多くがホテルに関連するテーマとなっており、イベント・マネジメントには主眼が置かれていないと考えられる。

MICE に関する授業として、「ケータリングおよび特別イベント・マネジメント（Catering and Special Events Management）」が該当すると考えられる。一方、特別イベントは屋内・屋外で開催されるイベントとしており、主にスポーツイベントや芸術系イベント、商品発表会を対象としている。また、「ケータリングおよび特別イベント・マネジメント」の授業は、飲食サービス分野における応用課目として位置付けられている。

図表 コーネル大学 Dyson The Hotel School Johnson の専攻の体系



(2) ヨーロッパにおける高等教育機関の MICE 関連カリキュラム

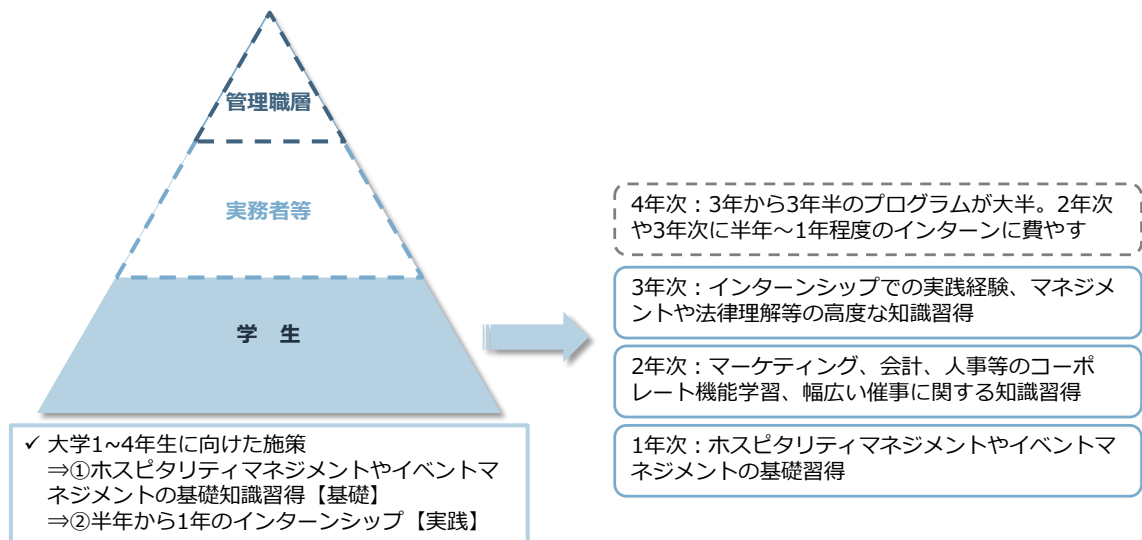
ヨーロッパの大学では、“Event Management”の中で MICE に関するカリキュラムが用意されている。アメリカ同様に催事の企画・運営・経営管理・戦略等を包括的、体系的に教育する課目・プログラムが整備されている。

ただしアメリカと異なり数学、文化、社会学等の基礎科目に対するウェイトは低く、1年次～2年次では、ホスピタリティ・マネジメントやイベント・マネジメントの基礎を、3年次～4年次では、各種マネジメントの応用や戦略の考え方、法律関連の知識、スポンサーシップや資金調達の考え方等、応用分野の課目が中心となっている。

また、アメリカ同様に半年～通年型のインターンシップに参加することが求められ、実践的な教育も重視されている。

ヨーロッパの大学の特徴としてカリキュラムで学ぶ期間は3年から3年半程度となっている。ただしカリキュラムの途中で半年から1年間はインターンシップのみに時間を当てることが多く、結果として卒業までに3年半から4年の期間を有する。

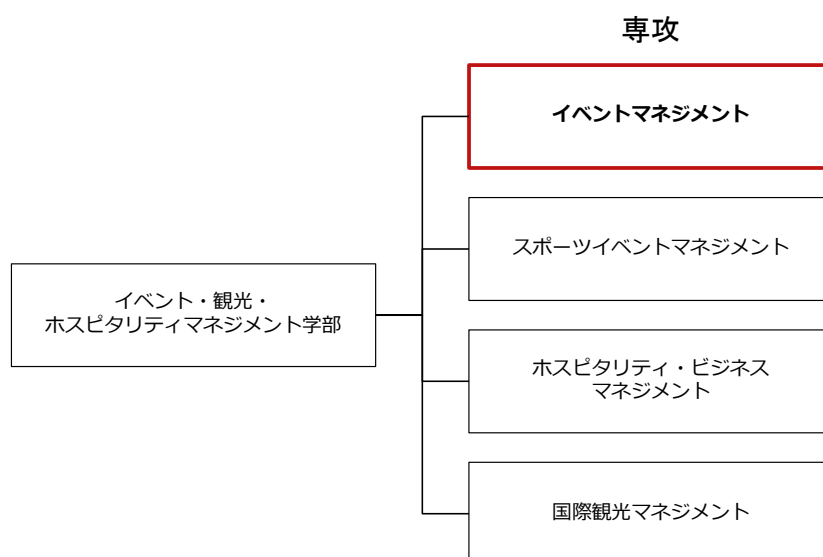
図表 ヨーロッパの大学の教育プログラムの特徴



① イギリス リーズ・ベケット大学の事例

イギリスのリーズに位置するリーズ・ベケット大学では、**Events, Tourism & Hospitality Management** 学部においてイベント・マネジメントの学士が取得できるカリキュラムが用意されている。その他にもスポーツイベント・マネジメント、ホスピタリティ・ビジネスマネジメント、国際観光マネジメントのコースが用意されており、さらにそれらのコースは学士だけでなく修士コースも存在する。

図表 リーズ・ベケット大学イベント・観光・ホスピタリティ学部の専攻の体系



3年間のカリキュラムでイベント・マネジメントの学士を取得することができるが、2年次と3年次の間に1年間企業の中で業務経験を積むことも選択でき、4年間かけてキャンパスでの学習と実践での業務経験を学ぶことができる仕組みとなっている（企業における業務経験は任意）。

カリキュラムは必修科目の“Core Modules”と選択科目の“Option Modules”から構成されている。

図表 イベント・マネジメントコースの履修科目

年次	必修/選択	履修時間	履修科目
1年次	必修	288時間	<ul style="list-style-type: none"> イベントプランニング 社会におけるイベント イベントマーケティングの構築 プロフェッショナルイベントの実践1 安全なイベントの計画 イベント主催のマネジメント
2年次	必修	288時間	<ul style="list-style-type: none"> イベントの法律とイベントビジネス管理 イベントのマーケティング・コミュニケーション プロフェッショナルイベントの実践2 人材の管理 イベントプロダクション
	選択		<ul style="list-style-type: none"> フェスティバルマネジメント 企業イベントとホスピタリティ 冠婚葬祭 起業家精神の醸成 広報とイベント イベントセキュリティと大型イベント スポーツ、メディア、文化 就業体験 <p>選択科目は年によって内容に変更あり</p>
3年次 ※	必修	234時間	<ul style="list-style-type: none"> イベントの将来動向 戦略的施設運営とマネジメント イベント主催の戦略的マネジメント <p>上記に加えて各人の個別実習あり</p>
	選択		<ul style="list-style-type: none"> パートナーシップの理解 リスクマネジメント イベントと異議 イノベーションな資金調達 ビジネスイベントプロダクション スポーツイベントの政策と政治 イベントにおけるスポンサーシップ <p>選択科目は年によって内容に変更あり</p>

※2年次と3年次の間に希望者は1年間の就業実習期間が存在。

1年次には基本的なイベントプランニング、安全なイベント管理、マーケティング等について学び、2年次にはそれらをベースに広報、セキュリティ、起業家精神等の様々な観点や多様なイベント（企業イベント、フェスティバル、冠婚葬祭、スポーツ等）について学ぶ。

3年次には1年次、2年次で学んだ知識をベースに、戦略的な運営やマネジメント、また資金調達や政策や政治との関係、スポンサーシップのあり方等、発展的なカリキュラムについて学ぶ。

さらに学士だけでなく、修士においてもイベント・マネジメントコースが用意されており、イベント・マネジメント、運営・品質管理、マーケティング、人事、リスクやその影響の把握等についてさらに発展的・専門的に学んでいくコースが用意されている。

図表 イベント・マネジメントコースの修士課程における履修科目

修士の履修科目
<ul style="list-style-type: none">• イベントの創造とイノベーション• イベント・マネジメントにおける効果とリスク• 戦略的なイベント・マネジメント• 国際的で戦略的な人材マネジメント• イベント運営と品質管理• 経験価値マーケティング• 修士研究のための方法論• 修士研究

② スイス グリオン大学の事例

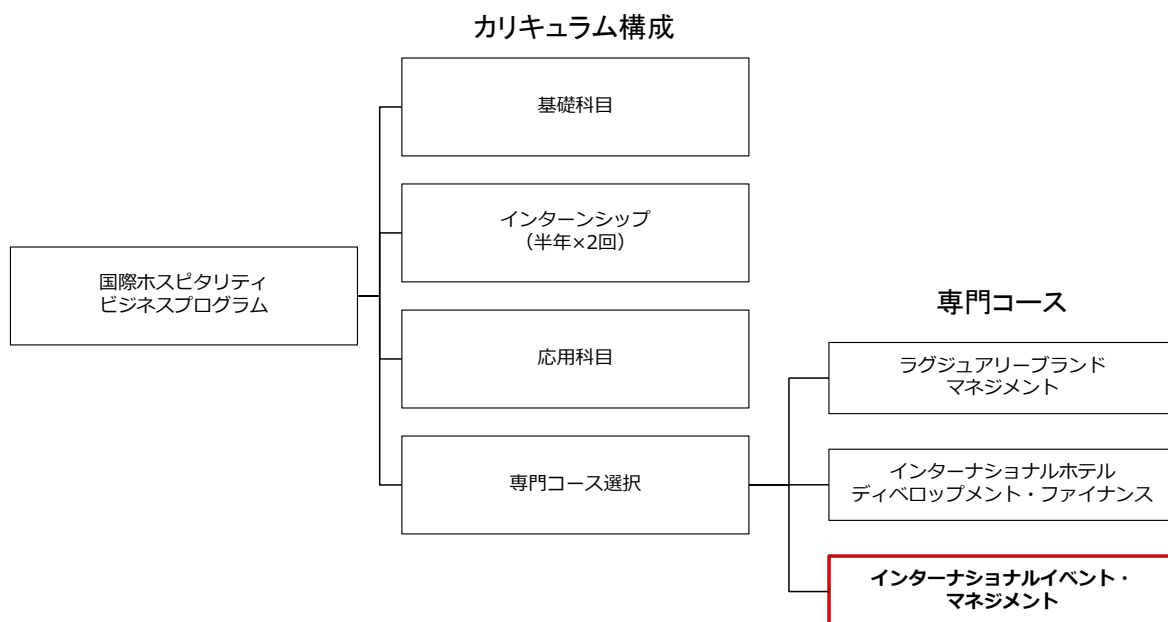
スイスのグリオン大学はスイス(グリオンとビュル)及びイギリス(ロンドン)にキャンパスを構えるホスピタリティ・マネジメントに特化した大学である。学生約 1,700 人の内、90%以上が世界各国からの留学生で占められている国際色豊かな大学である。

2018年のQS世界大学ランキングで、ホスピタリティ・レジャー学部部門で世界のトップ5に選出されるなど、世界的に非常に高い評価を受ける大学となっている。

その中で、学士を取得できるコースとして、国際ホスピタリティビジネスプログラムが存在する。プログラムは3.5年間で構成されており、授業だけでなく計1年にも及ぶインターンシップ(1年次と3年次にそれぞれ半年間実施)を通じて、高い専門性を身につけられるプログラムとなっている。

最終学期では、「ラグジュアリーブランドマネジメント」、「インターナショナルホテルディベロップメント・ファイナンス」、「インターナショナルイベント・マネジメント」の3コースの中から自身が専門性を高めたいコースを選択する。

図表 グリオン大学の専攻概要



図表 国際ホスピタリティビジネスプログラムの履修科目

年次	プログラム概要	履修科目
第1学期	<ul style="list-style-type: none"> サービス、キッチン、ハウスキーピング、ゲストリレーションズ等のホテルで求められる基本的な知識について習得と演習を行う 	<ul style="list-style-type: none"> 文化・伝統と料理 ゲストリレーションとホテル運営 飲食（F&B）に関する知識・技術 飲食（F&B）に関するトレンドとイノベーション ラグジュアリーカルチャー ビジネス・コミュニケーション ビジネス英語
第2学期	半年間のインターンシップ	
第3学期	<ul style="list-style-type: none"> ホスピタリティの基礎について学習 	<ul style="list-style-type: none"> マーケティング 財務・会計 プロフェッショナルコミュニケーションとアカデミックライティング 各職場にけるスタッフと能力 ホスピタリティ・ビジネスにおける数学と統計の応用 IT ビジネスツール 語学科目（選択制）
第4学期	<ul style="list-style-type: none"> ホスピタリティ・マネジメントについて学習 	<ul style="list-style-type: none"> 売り上げとデジタルマーケティング 会計管理 客室管理 ホスピタリティ産業と観光産業の経済 ホスピタリティとイベント運営 飲食（F&B）マネジメント 語学科目（選択制）
第5学期	半年間のインターンシップ	
第6学期	<ul style="list-style-type: none"> ビジネス戦略について学習 	<ul style="list-style-type: none"> ビジネス開発と戦略 企業財務 国際的な法律やリスクマネジメント レベニューマネジメントと予約管理 人材マネジメント 企業倫理と CSR 分析方法 プロジェクトマネジメント
第7学期	専門科目の選択、学士論文、進路検討 等	

最終学期で選択する 3 つのコース中にイベント・マネジメントが含まれている。国際イベント・マネジメントコースのカリキュラムは 5 つの科目から構成されており、基礎、戦略と計画、実装の 3 つのフェーズに対応して科目が構成されている。

図表 国際イベント・マネジメントコースの構成

レベル	科目	概要
Background	科目 1	• イベント・マネジメントの経済分析
Strategy and Planning	科目 2	• ホスピタリティ産業や IR におけるイベントの利用
	科目 3	• 戦略的リレーションシップの開発
Implementation	科目 4	• 顧客満足の達成
	科目 5	• イベントの経験

③ スペイン バロセロナ大学の事例

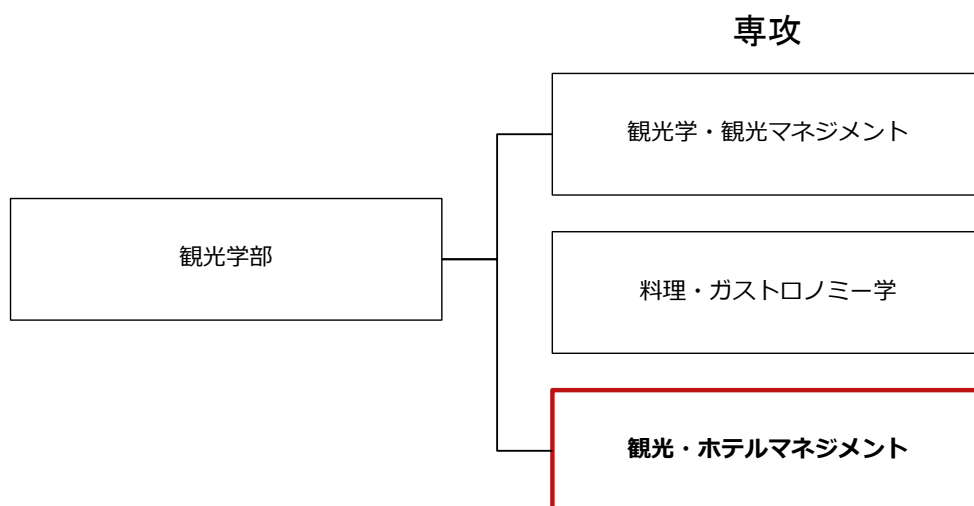
スペインにあるバルセロナ大学では、観光学部において、観光やホテルに関するホスピタリティ・マネジメントを学ぶことが出来る。学部向けの授業では、イベント・マネジメント等の MICE 関連に特化した専攻はないものの、カリキュラムの中でイベント・マネジメントに関する授業が用意されている。

ただし修士では、「Events Management」というコースが用意され、専門的にイベント・マネジメントについて学習することができるようになっている。

学部のコースでは4年間で240単位（ECTS クレジット）の取得が求められている。初年度は観光学を中心に基礎的な知識を学び、2年次ではマネジメントやマーケティング、分析等のビジネスの基礎を学ぶ。3年次、4年次ではプロジェクトマネジメントや観光のプランニングや開発等の実践的なテーマが多くなるカリキュラムとなっている。

カリキュラムの中に選択科目が存在し、その中に MICE に関係する科目として「Conference and event organization」や「Catering in events management」等が存在する。

図表 バルセロナ大学観光学部の専攻概要



図表 観光・ホテルマネジメントコースの履修科目

年次	必修/選択	単位	履修科目
1年次	必修	60 単位	<ul style="list-style-type: none"> • 旅行会社における会計 • 観光学の法律 • 観光学の経済 • 観光学の地理 • 基礎リサーチ • 観光と文化遺産 • イングリッシュコミュニケーション • 観光とホスピタリティ・マネジメントの基礎 • 観光とそのインパクト
2年次	必修	60 単位	<ul style="list-style-type: none"> • 旅行会社における経済と財務管理 • マーケットリサーチ • 戦略的で実効的なマーケティング • 政策 • イングリッシュコミュニケーション • 第2外国語 • 観光地の分析 • 観光とモビリティ • 実習
3年次	必修	45 単位	<ul style="list-style-type: none"> • イングリッシュコミュニケーション • マーケティングとコミュニケーション • 旅行会社における組織と人材マネジメント • 実習 • 宿泊マネジメント • ケータリングマネジメント • ホテル経営
4年次	必修	45 単位	<ul style="list-style-type: none"> • 観光産業におけるリーダーシップと起業家精神の開発 • レベニューマネジメント • 戦略的なプランニングと財務管理 • レベニューマネジメント
3・4年次	選択	計 30 単位	<ul style="list-style-type: none"> • 観光施設のデザイン • 不動産マネジメント • 国際的なホスピタリティ・マネジメント • 代替宿泊施設の管理

年次	必修/選択	単位	履修科目
			<ul style="list-style-type: none"> • ガストロノミー • ケータリングの空間デザイン • イベント・マネジメントにおけるケータリング • E-マーケティング • 売り上げ管理 • 予約管理 • 顧客リレーションと広報 • プロトコルとイベント・マネジメント • 会議とイベント主催 • 外国語

上記のカリキュラムのほかに、サマースクールに MICE 関連のプログラムが存在する。約 1 か月にわたり「Events Management」を学ぶことができる。

図表 イベント・マネジメントのカリキュラム

分類	履修科目	内容
イベント産業	• イベント産業とマネジメントの基礎	<ul style="list-style-type: none"> • 近年の実態とトレンド • イベントの種類と特性 • イベント関連産業 • 国際的なフレームワーク
	• 戦略と法的課題	<ul style="list-style-type: none"> • 資金調達戦略 • 多様な文化におけるビジネス • イベント・マネジメントの法的課題
イベントのロジスティクス	• プランニングと主催	<ul style="list-style-type: none"> • イベント主催 • 運営管理 • プロジェクトマネジメント • イベントとデザイン • 人材管理 • 外注管理
	• マーケティングとコミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> • コミュニケーション戦略としてのイベント • 広報、スポンサー • ソーシャルメディア • メディア・マネジメント
最終レポート		

(3) その他の国・地域における高等教育機関の MICE 関連カリキュラム

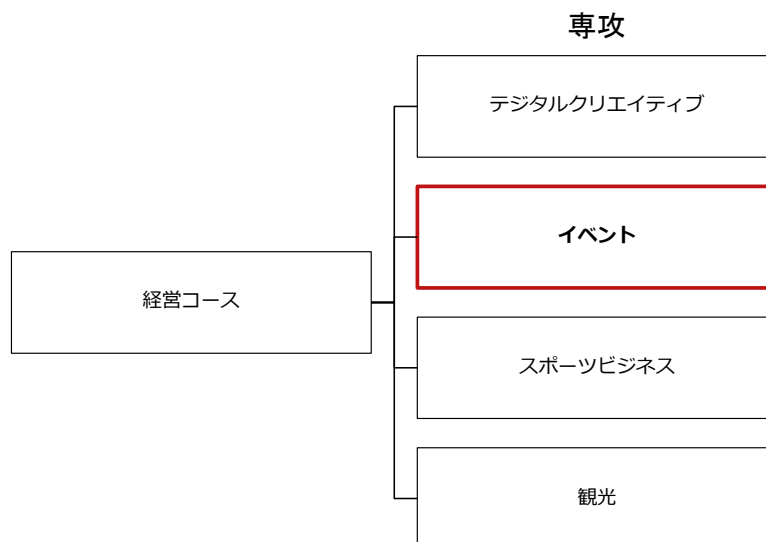
① オーストラリア シドニー工科大学の事例

オーストラリアのシドニー工科大学では学士が取得できる経営コース（Bachelor of Management）の中でイベント・マネジメントに関する科目が設置されている。

経営コースでは、「Digital Creative Enterprise」、「Events」、「Sport Business」、「Tourism」の 4 つの専攻が設定されており、その中の Events 専攻において MICE 関連のプログラムが存在する。

卒業にはクレジットポイントという単位取得が必要になり、経営コースでは 144 ポイントの取得が求められている。マネジメントコースの共通科目で 72 ポイント、各専攻に特化した科目で 48 ポイント、その他の選択科目で 24 ポイントの取得が義務付けられている。

図表 シドニー工科大学経営コースの専攻概要



図表 イベント専攻の履修科目

年次	分類	クレジット ポイント (単位)	履修科目
1 年次	共通科目	30 ポイント	<ul style="list-style-type: none"> マーケティング基礎 人材と組織マネジメント マネージャーに求められる会計スキル 社会政治 経営スキル
	専門科目	18 ポイント	<ul style="list-style-type: none"> イベント・エンタメの基礎 イベントの効果・レガシー イベント・マネジメント
2 年次	共通科目	30 ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ポジショニングとプロモーション スポンサーと収入 人材マネジメント イノベーションラボ 法律と倫理
	専門科目	12 ポイント	<ul style="list-style-type: none"> イノベーションと起業家精神 戦略の導入
3 年次	共通科目	12 ポイント	<ul style="list-style-type: none"> リサーチスキル ビジネスのための経済学
	専門科目	12 ポイント	<ul style="list-style-type: none"> サービス範囲と施設 (デザイン、運営、管理) イベント構築ラボ
	選択科目	24 ポイント	<ul style="list-style-type: none"> 他の専攻等から自由に選択
卒業 まで	専門科目	6 ポイント	<ul style="list-style-type: none"> インターンシップ ※最低 210 時間のインターンが必要

イベント・マネジメントに関する基礎を学びながら、並行して経営に必要な会計、人材、組織マネジメント、リサーチスキル、戦略検討等の要素を学ぶことができるプログラムになっている。

また卒業にはインターンシップを通じて最低 210 時間の就業経験が必要とされ、学んだことを実践で活用しながら知識を習得していく。

② 香港 香港理工大学の事例

香港の香港理工大学のホテル・観光学部（School of Hotel & Tourism Management）では、ホテル・マネジメントと観光・イベント・マネジメントに関するコースが用意されている。

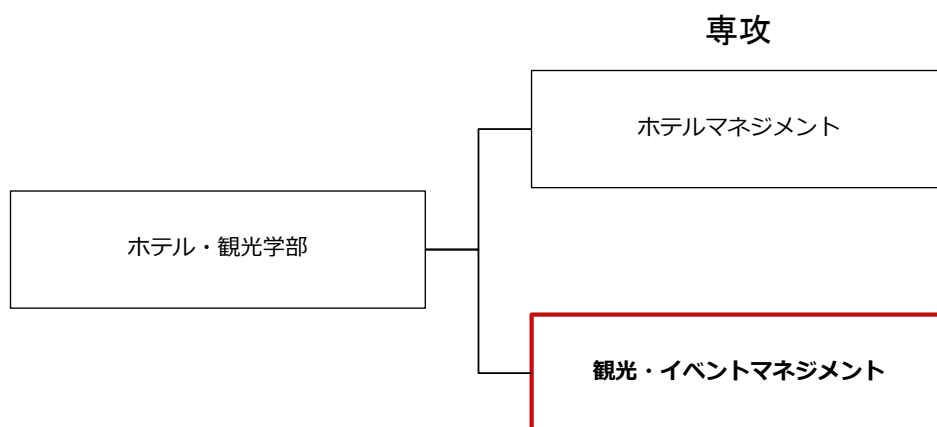
ホテル・観光学部では卒業までに 121 もしくは 124 の単位を取得することが課せられている。

その構成は、大学が求める一般教養で 30 単位、専攻に応じた専門科目で 76 単位、その他では副専攻や学部内外の他の科目で 15~18 単位となっている。

一般教養では英語や中国語といった語学、人間関係の構築や開発、コミュニティ・グローバル化、歴史、文化、科学技術、環境等の幅広い科目から構成されている。

これらのカリキュラムを 4 年間かけて終了すると学士が付与される。

図表 香港理工大学のホテル・観光学部専攻概要



図表 観光・イベント・マネジメント専攻の履修科目

分類		必要単位	レベル※	履修科目
共通科目	語学	6 単位	—	• 英語
		3 単位	—	• 中国語
	Cluster Area Requirement	最低 3 単位	—	• 人間性、人間関係の開発 (3 単位) • コミュニティ、組織、グローバル化 (3 単位) • 歴史、文化、世界観 (3 単位) • 科学、技術、環境
	共通必須科目	9 単位	—	• 新入生セミナー • リーダーシップと個の開発 • 奉仕活動
専門科目	共通科目	46 単位	1	• 心理学/社会学 (どちらか選択)
			1	• ビジネスのための統計学
			3	• ビジネスに求められる中国語
			3	• ビジネスに求められる英語
			1	• ホテル・観光産業の導入
			2	• 組織マネジメント
			2	• 会計管理
			2	• マーケティング
			2	• サービス品質
			3	• 消費者行動
			3	• 財務管理
			3	• 技術戦略
			3	• 調査の分析と解釈
			3	• 人材管理
	4	• 倫理と社会的責任		
	4	• 戦略的マネジメント		
	専門科目	18 単位	2	• 観光業の原理
			2	• 旅行者
			3	• 観光学の経済
3			• ミーティングマネジメント	
4			• 観光ビジネスのマネジメント	
4			• 展示のマネジメント	
キャリアパス	6 単位	3・4	• 観光セクター	

分類		必要単位	レベル※	履修科目
		※いずれかのセクターを選択		1. アトラクションと来場者マネジメント 2. エアラインマネジメント • イベントセクター 1. スペシャルイベント1 2. スペシャルイベント2
	論文/キャップストーン	6単位	4	• 卒業論文もしくは課題設定
その他		15~18単位	1~4	• 他の専攻や他学部の授業から選択

※レベルは履修学年の目安と考えられる

香港理工大学のカリキュラムは、アメリカのカリキュラムと同様に専門科目だけではなく、歴史や分野等も含めた幅広い一般教養と、マーケティングや会計管理等の基礎的なビジネススキルと業界の基礎知識を1年次、2年次に設定している。

3年次、4年次では、それらの知識をもとにした戦略の検討、観光やイベントビジネスのマネジメント方法等を学ぶ仕組みとなっている。

4. 我が国に求められる MICE 専門人材育成プログラムに関する検討

1) 行政機関や業界団体による教育プログラム

各業界団体が提供している教育プログラムや資格（CMP 等）には、業界が求めるスキル要件とその対象を明確にしながら教育プログラムや資格取得を推進している。

例えば EIC が提供している CMP では“CMP International Standards”として必要スキルを 9 つのドメインに分けている。さらにそのドメインの中には計 28 のスキルが定義され、さらにそのスキルは 84 のサブスキルによって規定されている。

1. CMP の定義する 9 つのドメインは下記の通り

➤ Strategic Planning

◇ ミーティングやイベントを企画するための戦略的プラン、クライアントのニーズに則したゴールや目標の設定、設定したゴールや目標を達成するために必要となる要素の特定、イベントを計画するための財務概要の検討等を学ぶ

➤ Project Management

◇ ミーティングやイベントの企画業務をマネジメントするスキル。設定した目標を達成するために必要なマネジメントプランを学ぶ

➤ Risk Management

◇ ミーティングやイベントを開催する上で生じるリスクを特定・分析することで、緊急時の対応や事態を最小限で抑える術を学ぶ

➤ Finance Management

◇ ミーティングやイベントを企画・運営するための予算確保や予算管理、決済プロセス等について学ぶ

➤ Human Resources

◇ スタッフやボランティアの雇用や教育について学ぶ

➤ Stakeholder Management

◇ 関連プレイヤーとの関係構築やマネジメントについて学ぶ

➤ Meeting or Event Design

◇ プログラムの目的、調達戦略、評価方法等の開発や、登壇者や演者の検討・手配、飲食の検討・手配、使用する技術の検討・手配等、多岐にわたる項目を学ぶ

➤ **Site Management**

◇ 祭事の会場選定、レイアウト検討、装飾等の空間デザイン、会場でのコミュニケーションマネジメント等について学ぶ

➤ **Marketing**

◇ マーケティングプランの開発、マーケティングツールや広告等の作成、プロモーション、広報等について学ぶ

SITE等の資格においても、表現等はことなるものの基本的に要求される項目には類似しているものが多く、これらのスキルを整理することでMICEに求められるスキルセットを整理することができる。

図表 複数の資格に求められるスキル要件の比較

EIC (CMP) のスキル 要件	SITE (CIS) のスキル 要件	ASAE (CAE) のスキル 要件
Strategic Planning	Strategic Planning	Strategic Management に 包含
Project Management	Project Management	
Risk Management	Risk Management Crisis Management	Administration に包含
Financial Management	Financial Management	Strategic Management に 包含
Human Resources	Human Resources	Administration に包含
Stakeholder Management	Stakeholder Management Administration	Administration、 Membership Development、 Leadership、Governance & Structure に包含
Meeting or Event Design	Incentive Program Design	Programs, Products, & Services
Site Management	Site Management	Administration に包含
Marketing	Marketing Sales	Marketing, Public Relations, & Communications
—	—	Governance & Structure
—	—	Knowledge Management & Research
—	Professionalism	Public Policy, Government Relations, and Coalition Building

図表 国際的な業界団体が求めるスキルセットの概要

基本スキル	スキル要件の例	EIC	SITE	ASAE	IAEE
		CMP	CIS	CAE	CEM
全体計画の検討	催事の目的やクライアントのニーズ理解	○	○	○	○
	適切なゴール・目的設定				
	ゴール・目的達成に必要な事項の理解				
	成果の可視化・成果の測定				
マーケティング	ターゲットの明確化やマーケティングプランの検討	○	○	○	○
	ツールの開発・プロモーション実施				
	売り上げ管理(効果の把握)				
催事のデザイン・設計	ゴール・目的の設定	○	○		
	プログラムの設計(スピーカーの選定、飲食の検討、利用する機器や技術の検討)				
	催事による成果の評価				
会場選定・管理	会場選定	○	○		○
	会場レイアウト・フロアプランの検討				
	参加者同士のコミュニケーションマネジメント				
登録管理	来場者や出展者のスムーズな登録				○
プロジェクト管理・催事運営	ゴール・目的の把握・管理	○	○	○	○
	契約管理				
	プログラムの進捗や予算の管理				
	ロジスティクス管理				
ステークホルダー管理	ステークホルダーのニーズ把握	○	○	○	
	ステークホルダーとのコミュニケーション				
リスク管理	リスク要因の把握	○	○	○	○
	リスク発生時のインパクト把握				
	リスク発生時の対応とインパクト最小化の検討				
業者選定・管理	催事の成功のための業者の選定			○	○
	業者との契約				
財務管理	イベントの予算確保と把握	○	○	○	○
	コスト削減方法の理解				
	予算の進捗管理				
	支払い手続き等の管理				
人事	スタッフやボランティアの採用	○	○	○	
	スタッフやボランティアの管理・教育				
	労働力の確保やマネジメント				
知識共有・リサーチ	ナレッジマネジメント			○	
	調査、評価、統計				
公的機関との協力	公共政策			○	
	政府とのリレーション				
	協力体制構築				
	広報				

M・I・C・E とそれぞれ催事の特徴やプレイヤーは異なるものの、各業界団体が提示しているスキルは共通する項目も多く、共通項の多いスキルについては MICE 業界の従事者として必須となるスキルであると考えられる。

また各スキルは、前段で整理した業界団体が提供しているプログラムを通じて習得することができる。我が国の教育プログラムについても、業界で求められるスキルセットを明確にした上で、現在提供しているセミナーやワークショップ等の教育プログラムが、どのスキルの獲得を意図したものなのかを明確にして提供していく必要があると考えられる。

さらにこれまでに紹介した各業界団体が提供するプログラムは、オンラインで受講できるものも数多く存在する。各業界団体や地域の行政機関がそれらを参考に自前で全ての領域をカバーできるプログラムを開発することは現実的ではない。これらの既存のプログラムを有効活用する等をして、業界や地域で補足出来ない部分を適宜フォローしていくことが望ましいと考えられる。

○国際 MICE の誘致促進を検討する業界団体や地域に求められる検討案

1. 業界に不足している知識や、教育対象に取得して欲しい知識・スキルの明確化
 - プログラム提供を行う前に、業界全体や対象としている属性が不足しているスキルや身につけるべきスキルを明確にする。
2. プログラムで得られる知識・知見の明確化
 - 前頁のスキルセットを参考に、提供しようとしているプログラムが何のスキルを身につけるために実施するのかを明確にし、プログラムの構成等を検討する。また参加者に対してもプログラムを通じて得られる知識やスキルを明確化する。
3. グローバルな業界団体が提供しているプログラムや人材の活用
 - 国内の業界団体や地域の行政機関が提供できる範囲は限られるため、海外の業界団体が提供しているプログラムのオンラインプログラムを活用する。
 - また海外の業界団体で提供しているプログラムとの提携や講師の派遣依頼等をして、特に必要性の高いプログラムは国内でも提供する。
4. 日本独自のプログラムの検討
 - 特に必要性の高いスキルは海外の業界団体等が提供しているプログラムを日本語で提供することや、日本独自にアレンジして日本人向けにリバイスする等を行う。

2) 高等教育機関における教育カリキュラム

日本では、横浜商科大学の「MICE ビジネス中核人材育成講座」や、関西学院大学の「インバウンド需要に対応した MICE・地方観光人材の育成プログラム」等で、MICE の人材育成プログラムが組成されている。日本で提供されている MICE 関連の授業では、MICE の市場、各催事の内容、MICE を核とした観光産業振興等に関する領域が扱われ、ホテルや観光産業に関わる事業者によって授業が提供されている。

欧米では、アメリカを中心にセントラルフロリダ大学、ニューヨーク州立大学デルハイ校、ネバダ大学ラスベガス校等で MICE の人材育成に関するカリキュラムが設置されている。アメリカで実施されている MICE に関する授業は、1 年次から 4 年次までの間、基礎・発展・応用が体系的に構成されており、特に 1 年次や 2 年次に履修する基礎科目が重要視されている。また、カリキュラムでは大学の授業を履修以外にも長期型インターンシップ等の実務経験を積むことが推奨され、理論と実践を同時に習得することができるとされている。

以下では、日本と欧米における MICE 人材育成プログラムの比較を踏まえ、日本の高等教育機関における MICE 人材育成プログラムへの示唆を整理する。

第一に、セントラルフロリダ大学を初めアメリカの高等教育機関では、MICE に関連するカリキュラムの中で、統計学や財務会計、経済学、文化・歴史等の基礎科目に重点が置かれている。一方、日本ではセントラルフロリダ大学の 1 年次・2 年次の学生が履修するような基礎科目に焦点が当てられておらず、セントラルフロリダ大学の 3 年次・4 年次の学生が履修するような応用部分に焦点が置かれたカリキュラムとなっている。欧米では基礎科目に注力することで、MICE 催事やその他の幅広い催事に共通して求められるスキルを提供し、幅広い催事に対応できる人材が育成されている。日本でも幅広い催事に対応出来る人材育成が求められる中で、基礎科目を重視したカリキュラムの構成が必要と考えられる。

第二に、欧米の高等教育機関では、経済学や経営学・マネジメントの専門家が教鞭を執っており、理論体系化した講義が行われている。一方、日本の高等教育機関における MICE の講座では、実務家が教鞭を執り、ケースや自身の経験に基づく講義を展開している傾向がある。この結果、学生は MICE に関して理論体系化した内容を習得することが難しい状態となっている可能性がある。日本の高等教育機関における MICE 講座でも、経済学や経営学の教授や専門家が教鞭を執るような体制が必要と考えられる。

第三に、欧米の高等教育機関では、高学年の学生に対して長期型インターンシップを単位認定する等、学生が実践力を身につける取組を推奨している。一方、

日本では、授業と並行してインターンシップ等の実務経験を積む機会が少ないか、期間が限定的と考えられる。欧米の高等教育機関では、実務経験を積む機会を通じて理論と実践を同時に習得し、発展的な学習を促進している。日本の高等教育機関においても、MICE について学習している学生が、より実践的・専門的な業務に触れる機会を設ける必要があると考えられる。

○国際 MICE の誘致促進にあたり、日本の高等教育機関に求められる検討案

1. 基礎科目の重視

- 現在日本の高等教育機関における MICE 人材育成プログラムでは、MICE の各催事の説明、MICE を核とした地域振興等に焦点が当てられている。
- 幅広い催事の開催に対応出来る人材育成が求められる中で、日本の高等教育機関では、MICE の概要だけでなく、経済学、統計学、財務会計、世界の文化・歴史等、基礎科目を重視したカリキュラムの構成が必要と考えられる。

2. 教授・専門家による教育

- 現在日本の高等教育機関では、ホテルや観光産業の実務家が教鞭を執り、ケースや自身の成功体験に基づくテーマが中心となって扱われている。
- MICE の観点だけでなく、経済学・経営学等の観点から MICE について教鞭を執れる教授や専門家が教鞭を執る必要があると考えられる。

3. 実務経験の獲得機会や演習科目の重視

- 現在日本の高等教育機関では、学生に対して長期型のインターンシップを推奨しておらず、実践力を身につける機会が少ないと考えられる。
- 長期インターンシップの単位認定や、座学だけではない知識を実践する講座の増設などを通じて、学生が MICE の現場で実践力を身につける機会を設けることが必要と考えられる。